

働き方改善調査研究事業 報告書

第2章 事業所調査結果

1. 調査回答事業所の属性

(1) 業種及び従業員規模

回答事業所の業種割合は、「医療、福祉」(27.2%)が最も多く、次いで「製造業」(18.0%)、「卸売業、小売業(以下、卸・小売業)」(15.0%)、「サービス業」(7.6%)と続く。

事業所従業員規模は、「10~19人」(40.6%)、「20~29人」(20.0%)、「30~49人」(17.6%)と続く。

図表1 回答事業所の業種及び従業員規模(問1、問3)

業種別	規模別 総数	10~19人		20~29人		30~49人		50~99人		100~199人		200~299人		300人以上		
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合		
全体	1,726	100.0	701	40.6	345	20.0	304	17.6	198	11.5	88	5.1	24	1.4	41	2.4
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
農業、林業	5	100.0	3	60.0	0	0.0	2	40.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
		0.3	0.4	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	93	100.0	46	49.5	21	22.6	17	18.3	6	6.5	2	2.2	0	0.0	1	1.1
		5.4	6.6	6.1	5.6	5.6	3.0	3.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	2.4	2.4
製造業	310	100.0	107	34.5	57	18.4	55	17.7	47	15.2	23	7.4	9	2.9	11	3.5
		18.0	15.3	16.5	18.1	18.1	23.7	23.7	26.1	26.1	37.5	37.5	26.8	26.8	26.8	26.8
電気・ガス・熱供給・水道業	20	100.0	8	40.0	3	15.0	2	10.0	3	15.0	1	5.0	2	10.0	1	5.0
		1.2	1.1	0.9	0.7	0.7	1.5	1.5	1.1	1.1	8.3	8.3	2.4	2.4	2.4	2.4
情報通信業	11	100.0	5	45.5	1	9.1	2	18.2	1	9.1	1	9.1	0	0.0	0	0.0
		0.6	0.7	0.3	0.3	0.7	0.5	0.5	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業、郵便業	49	100.0	10	20.4	11	22.4	14	28.6	6	12.2	4	8.2	2	4.1	0	0.0
		2.8	1.4	3.2	4.6	4.6	3.0	3.0	4.5	4.5	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業、小売業	259	100.0	129	36.9	58	22.4	37	14.3	16	6.2	9	3.5	2	0.8	6	2.3
		15.0	18.4	16.8	12.2	12.2	8.1	8.1	10.2	10.2	8.3	8.3	14.6	14.6	14.6	14.6
金融業、保険業	79	100.0	45	57.0	18	22.8	9	11.4	5	6.3	0	0.0	0	0.0	2	2.5
		4.6	6.4	5.2	3.0	3.0	2.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9	4.9	4.9
不動産業、物品賃貸業	15	100.0	5	33.3	4	26.7	3	20.0	1	6.7	1	6.7	0	0.0	0	0.0
		0.9	0.7	1.2	1.0	1.0	0.5	0.5	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
学術研究、専門・技術サービス業	30	100.0	17	56.7	8	26.7	3	10.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.3
		1.7	2.4	2.3	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	2.4	2.4
宿泊業、飲食サービス業	102	100.0	43	42.2	21	20.6	21	20.6	10	9.8	1	1.0	1	1.0	2	2.0
		5.9	6.1	6.1	6.9	6.9	5.1	5.1	1.1	1.1	4.2	4.2	4.9	4.9	4.9	4.9
生活関連サービス業、娯楽業	39	100.0	16	41.0	8	20.5	3	7.7	4	10.3	5	12.8	0	0.0	1	2.6
		2.3	2.3	2.3	1.0	1.0	2.0	2.0	5.7	5.7	0.0	0.0	0.0	2.4	2.4	2.4
教育、学習支援業	91	100.0	35	38.5	18	19.8	15	16.5	15	16.5	5	5.5	0	0.0	3	3.3
		5.3	5.0	5.2	4.9	4.9	7.6	7.6	5.7	5.7	0.0	0.0	0.0	7.3	7.3	7.3
医療、福祉	469	100.0	162	34.5	90	19.2	94	20.0	69	14.7	26	5.5	6	1.3	11	2.3
		27.2	23.1	26.1	30.9	30.9	34.8	34.8	29.5	29.5	25.0	25.0	26.8	26.8	26.8	26.8
複合サービス事業	22	100.0	18	81.8	3	13.6	1	4.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
		1.3	2.6	0.9	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	132	100.0	52	39.4	24	18.2	26	19.7	15	11.4	10	7.6	2	1.5	2	1.5
		7.6	7.4	7.0	8.6	8.6	7.6	7.6	11.4	11.4	8.3	8.3	4.9	4.9	4.9	4.9

※割合については、上段：当該業種に占める構成割合、下段：当該規模に占める構成割合

働き方改善調査研究事業 報告書

(2) 本・支店別

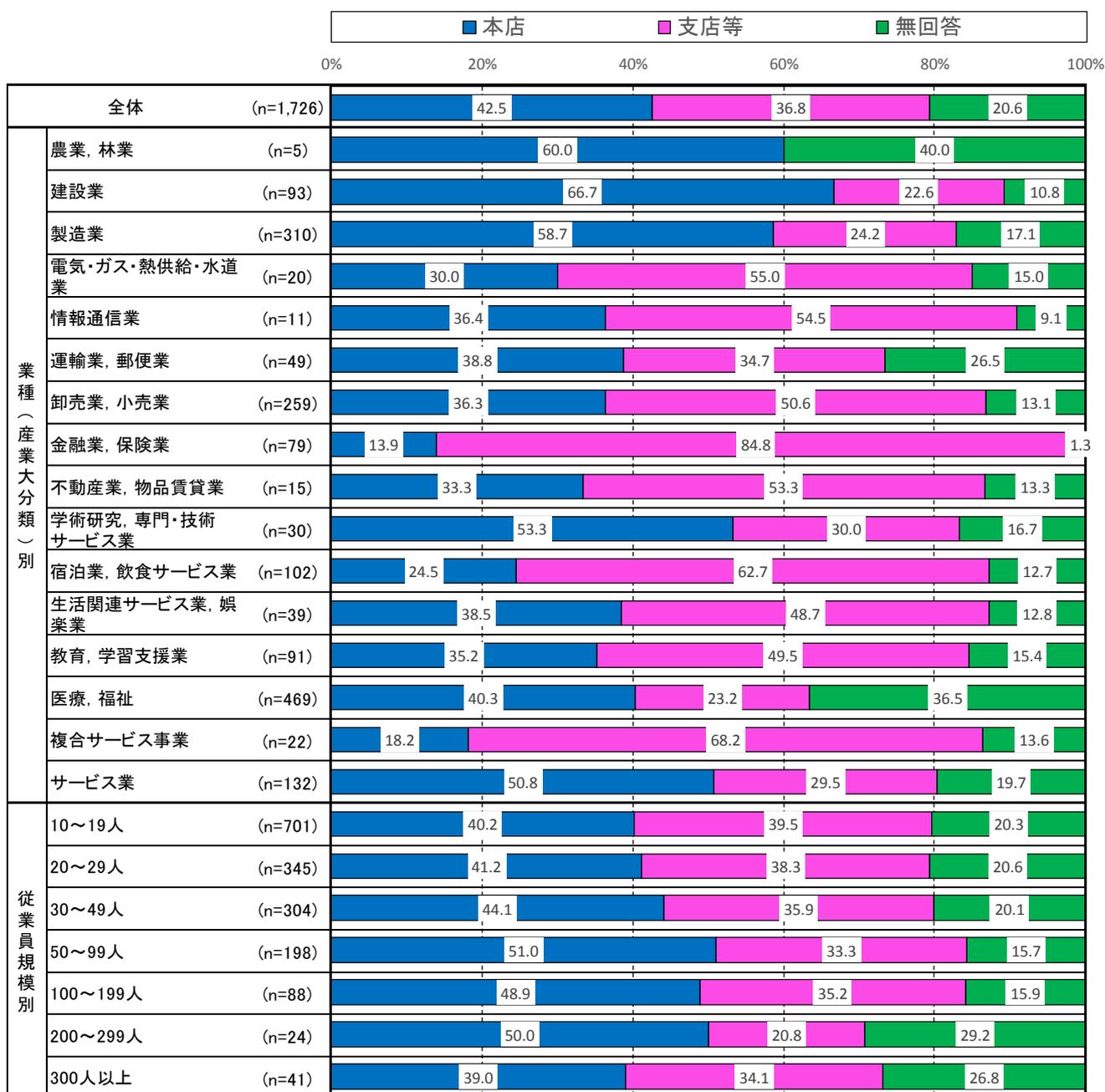
<全体結果>

回答事業所のうち「本店」は42.5%、「支店等」は36.8%である。

<業種別の結果>

「本店」の割合が高い業種は、「建設業」(66.7%)、「製造業」(58.7%)、「学術研究、専門・技術サービス(以下、学術研究等)」(53.3%)となっている。一方、「支店等」の割合が高い業種は、「金融業、保険業(以下、金融・保険業)」(84.8%)、「複合サービス業」(68.2%)、「宿泊業、飲食サービス業(以下、宿泊・飲食)」(62.7%)、「電気・ガス・熱供給・水道業(以下、電気・ガス等)」(55.0%)、「情報通信業」(54.5%)、などとなっている。

図表2 本・支店別(問2)



働き方改善調査研究事業 報告書

(3) 雇用形態別従業員数

＜全体結果＞

回答事業所全体の従業員数は 100,467 人となっており、そのうち正社員は 52,210 人 (52.0%)、非正規社員は 48,257 人 (48.0%) となっている。

正社員のうち、男性は 34,922 人 (34.8%) で、女性は 17,288 人 (17.2%) となっている。

非正規社員でもっとも多いのは「パート・女性」で 17,576 人 (17.5%)、次に「アルバイト・女性」で 9,115 人 (9.1%)、以下、「アルバイト・男性」で 5,891 人 (5.9%)、「契約社員・女性」で 2,026 人 (2.0%) と、非正規社員のうちで女性が占める割合は 66.1%となっている。

＜業種別の結果＞

正社員割合が高い業種は、「建設業」(87.1%)、「電気・ガス等」(86.5%)、「金融・保険業」(81.6%)、「情報通信業」(74.7%)、「運輸業、郵便業(以下、運輸・郵便業)」(71.2%) となっている。一方、正社員割合の低い業種は、「宿泊・飲食」(14.0%)、「卸・小売業」(36.7%)、「サービス業」(34.3%)、「生活関連サービス業、娯楽業(以下、生活関連等)」(46.3%) となっている。

「建設業」、「電気・ガス等」、「運輸・郵便業」は、男性正社員が 70%以上を占める。男性正社員よりも女性正社員が多い業種は、「医療、福祉」のみである。

正社員割合が最も低い「宿泊・飲食」は、「アルバイト・女性」(44.0%) と「アルバイト・男性」(25.4%) と、約 70%がアルバイトであることが特徴的である。

○参考値（全国調査等の結果）

【平成 26 年雇用動向調査¹】

- ・男性従業員比率は 55.8%、女性従業員比率は 44.2%である。
- ・正規職員（雇用期間の定めなし）比率は 76.0%、非正規職員（雇用期間の定めあり）比率は 24.0%である。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。（下記参照）

¹平成 26 年度に厚生労働省が実施した調査。全国の 16 大産業 [鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業（その他の生活関連サービス業のうち、家事サービス業を除く。）、教育、学習支援業、医療、福祉、複合サービス事業及びサービス業（他に分類されないもの）（政治・経済・文化団体、宗教及び外国公務を除く。）] に属する常用労働者が 5 人以上の事業所に対して、平成 26 年 7 月～8 月（上半期調査）、平成 27 年 1 月～2 月（下半期調査）にかけて調査。郵送による調査票の配布回収する方法で実施。調査対象事業数は 14,284 事業所、有効回答数は 10,152 事業所（上半期）、9,290 事業所（下半期）、平均有効回収率 68.1%。

働き方改善調査研究事業 報告書

図表3 雇用形態別従業員数（問3）

業種（産業大分類）別	n	従業員計	男性従業員計	女性従業員計	正社員計	正社員		非正規社員計	男性派遣労働者	女性派遣労働者	男性契約社員	女性契約社員	嘱託・男性	嘱託・女性	男性パート	女性パート	男性アルバイト	女性アルバイト	男性その他	女性その他
						男性正社員	女性正社員													
全体	1,701	100,467	51,283	49,184	52,210	34,922	17,288	48,257	869	977	1,516	2,026	1,249	920	5,198	17,576	5,891	9,115	1,638	1,282
農業、林業	5	114	71	37	61	53	8	53	1	5	0	0	0	0	17	16	6	0	0	8
建設業	93	2,887	2,295	528	2,516	2,155	361	371	14	19	31	24	44	2	44	116	11	7	51	8
製造業	309	23,139	16,450	5,999	16,533	14,072	2,461	6,606	575	436	303	253	324	66	891	2,659	137	163	609	190
電気・ガス・熱供給・水道業	20	1,402	1,228	132	1,213	1,120	93	189	0	3	1	0	9	0	0	8	3	30	107	28
情報通信業	10	324	228	92	242	184	58	82	17	5	22	6	2	0	2	23	0	2	3	0
運輸業、郵便業	47	2,347	1,802	334	1,670	1,548	122	677	10	4	66	13	48	4	74	191	112	47	104	4
卸売業、小売業	257	9,909	3,762	3,998	3,636	2,860	776	6,273	41	22	60	61	71	16	735	3,085	968	1,094	66	54
金融業、保険業	79	2,403	1,228	1,103	1,960	1,176	784	443	2	23	22	19	52	19	21	270	0	1	7	7
不動産業、物品賃貸業	14	507	287	174	356	249	107	151	11	17	9	3	3	2	18	47	22	19	0	0
学術研究、専門・技術サービス業	29	1,240	727	489	741	561	180	499	1	3	160	247	6	1	3	57	7	10	2	2
宿泊業、飲食サービス業	99	14,430	2,343	2,029	2,022	1,709	313	12,408	0	7	129	171	23	15	490	1,537	3,668	6,352	15	1
生活関連サービス業、娯楽業	37	2,173	905	889	1,006	684	322	1,167	17	25	17	59	64	27	130	439	107	181	57	44
教育、学習支援業	91	4,429	2,098	1,627	2,468	1,561	907	1,961	8	25	242	189	129	77	213	433	271	227	74	73
医療、福祉	458	27,713	7,288	18,813	15,112	5,011	10,101	12,601	59	186	361	693	229	380	1,658	7,497	230	773	199	336
複合サービス事業	22	341	186	143	236	161	75	105	0	0	0	8	10	2	25	60	0	0	0	0
サービス業	131	7,109	3,245	2,762	2,438	1,818	620	4,671	113	197	93	280	235	309	877	1,138	349	209	344	527
従業員規模別																				
10～19人	701	9,981	4,293	4,360	5,315	3,545	1,770	4,666	39	51	84	103	113	50	569	2,384	561	604	56	52
20～29人	345	8,281	3,552	3,733	4,349	2,868	1,481	3,932	39	56	80	226	107	55	489	1,904	337	497	76	66
30～49人	304	11,529	5,124	5,089	5,896	3,917	1,979	5,633	74	86	170	238	201	97	747	2,586	435	583	216	200
50～99人	198	13,808	6,314	6,366	7,600	4,927	2,673	6,208	167	129	125	156	184	100	848	3,166	397	447	247	242
100～199人	88	12,121	5,594	5,651	6,399	4,174	2,225	5,722	222	365	214	256	203	155	817	2,723	289	229	167	82
200～299人	24	5,951	3,042	2,346	3,604	2,463	1,141	2,347	100	106	149	308	82	89	222	768	154	238	108	23
300人以上	41	38,796	16,224	11,604	19,047	13,028	6,019	19,749	228	184	694	739	359	374	1,506	4,045	3,718	6,517	768	617

※不明を除いて集計

業種（産業大分類）別	n	従業員計	男性従業員計	女性従業員計	正社員計	正社員		非正規社員計	男性派遣労働者	女性派遣労働者	男性契約社員	女性契約社員	嘱託・男性	嘱託・女性	男性パート	女性パート	男性アルバイト	女性アルバイト	男性その他	女性その他
						男性正社員	女性正社員													
全体	1,701	100.0	51.0	49.0	52.0	34.8	17.2	48.0	0.9	1.0	1.5	2.0	1.2	0.9	5.2	17.5	5.9	9.1	1.6	1.3
農業、林業	5	100.0	62.3	32.5	53.5	46.5	7.0	46.5	0.9	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	14.9	14.0	5.3	0.0	0.0	7.0
建設業	93	100.0	79.5	18.3	87.1	74.6	12.5	12.9	0.5	0.7	1.1	0.8	1.5	0.1	1.5	4.0	0.4	0.2	1.8	0.3
製造業	309	100.0	71.1	25.9	71.5	60.8	10.6	28.5	2.5	1.9	1.3	1.1	1.4	0.3	3.9	11.5	0.6	0.7	2.6	0.8
電気・ガス・熱供給・水道業	20	100.0	87.6	9.4	86.5	79.9	6.6	13.5	0.0	0.2	0.1	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6	0.2	2.1	7.6	2.0
情報通信業	10	100.0	70.4	28.4	74.7	56.8	17.9	25.3	5.2	1.5	6.8	1.9	0.6	0.0	0.6	7.1	0.0	0.6	0.9	0.0
運輸業、郵便業	47	100.0	76.8	14.2	71.2	66.0	5.2	28.8	0.4	0.2	2.8	0.6	2.0	0.2	3.2	8.1	4.8	2.0	4.4	0.2
卸売業、小売業	257	100.0	38.0	40.3	36.7	28.9	7.8	63.3	0.4	0.2	0.6	0.6	0.7	0.2	7.4	31.1	9.8	11.0	0.7	0.5
金融業、保険業	79	100.0	51.1	45.9	81.6	48.9	32.6	18.4	0.1	1.0	0.9	0.8	2.2	0.8	0.9	11.2	0.0	0.0	0.3	0.3
不動産業、物品賃貸業	14	100.0	56.6	34.3	70.2	49.1	21.1	29.8	2.2	3.4	1.8	0.6	0.6	0.4	3.6	9.3	4.3	3.7	0.0	0.0
学術研究、専門・技術サービス業	29	100.0	58.6	39.4	59.8	45.2	14.5	40.2	0.1	0.2	12.9	19.9	0.5	0.1	0.2	4.6	0.6	0.8	0.2	0.2
宿泊業、飲食サービス業	99	100.0	16.2	14.1	14.0	11.8	2.2	86.0	0.0	0.0	0.9	1.2	0.2	0.1	3.4	10.7	25.4	44.0	0.1	0.0
生活関連サービス業、娯楽業	37	100.0	41.6	40.9	46.3	31.5	14.8	53.7	0.8	1.2	0.8	2.7	2.9	1.2	6.0	20.2	4.9	8.3	2.6	2.0
教育、学習支援業	91	100.0	47.4	36.7	55.7	35.2	20.5	44.3	0.2	0.6	5.5	4.3	2.9	1.7	4.8	9.8	6.1	5.1	1.7	1.6
医療、福祉	458	100.0	26.3	67.9	54.5	18.1	36.4	45.5	0.2	0.7	1.3	2.5	0.8	1.4	6.0	27.1	0.8	2.8	0.7	1.2
複合サービス事業	22	100.0	54.5	41.9	69.2	47.2	22.0	30.8	0.0	0.0	0.0	2.3	2.9	0.6	7.3	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	131	100.0	45.6	38.9	34.3	25.6	8.7	65.7	1.6	2.8	1.3	3.9	3.3	4.3	12.3	16.0	4.9	2.9	4.8	7.4
従業員規模別																				
10～19人	701	100.0	43.0	43.7	53.3	35.5	17.7	46.7	0.4	0.5	0.8	1.0	1.1	0.5	5.7	23.9	5.6	6.1	0.6	0.5
20～29人	345	100.0	42.9	45.1	52.5	34.6	17.9	47.5	0.5	0.7	1.0	2.7	1.3	0.7	5.9	23.0	4.1	6.0	0.9	0.8
30～49人	304	100.0	44.4	44.1	51.1	34.0	17.2	48.9	0.6	0.7	1.5	2.1	1.7	0.8	6.5	22.4	3.8	5.1	1.9	1.7
50～99人	198	100.0	45.7	46.1	55.0	35.7	19.4	45.0	1.2	0.9	0.9	1.1	1.3	0.7	6.1	22.9	2.9	3.2	1.8	1.8
100～199人	88	100.0	46.2	46.6	52.8	34.4	18.4	47.2	1.8	3.0	1.8	2.1	1.7	1.3	6.7	22.5	2.4	1.9	1.4	0.7
200～299人	24	100.0	51.1	39.4	60.6	41.4	19.2	39.4	1.7	1.8	2.5	5.2	1.4	1.5	3.7	12.9	2.6	4.0	1.8	0.4
300人以上	41	100.0	41.8	29.9	49.1	33.6	15.5	50.9	0.6	0.5	1.8	1.9	0.9	1.0	3.9	10.4	9.6	16.8	2.0	1.6

※不明を除いて集計

働き方改善調査研究事業 報告書

(4) 役職者数

＜全体結果＞

回答事業所のうち、係長相当職以上の役職者は 17,563 人、うち男性は 14,337 人 (81.6%)、女性は 3,226 人 (18.4%) となっている。課長相当職以上の女性役職者割合は 7.1%、部長相当職以上の女性役職者割合は 4.2%となっている。

＜業種別の結果＞

係長相当職以上の男性役職者割合が高い業種は、「電気、ガス等」(96.5%)、「運輸・郵便業」(94.0%)、「情報通信業」(91.9%)、「製造業」(91.8%) などとなっている。一方、係長相当職以上の女性役職者割合が男性を上回る業種は、「医療、福祉」(50.9%) のみである。

図表 4 役職者数 (問 4)

	管理職計			係長・主任			課長代理			課長			部長			支社長・事業部長			役員			
	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	
全体 (単位:人)	17,563	14,337	3,226	8,591	6,850	1,741	1,226	976	250	3,473	2,961	512	1,541	1,374	167	602	518	84	2,124	1,652	472	
業種 (産業大分類)																						
農業、林業	33	29	4	5	3	2	0	0	0	2	2	0	1	1	0	1	1	0	21	19	2	
建設業	964	859	105	346	308	38	38	36	2	214	206	8	128	122	6	39	37	2	195	146	49	
製造業	6,965	6,397	568	3,961	3,599	362	296	285	11	4,224	3,669	55	584	567	17	107	106	1	589	467	122	
電気・ガス・熱供給・水道業	348	336	12	214	208	6	5	5	0	76	76	0	15	14	1	6	6	0	29	24	5	
情報通信業	124	114	10	59	53	6	9	9	0	26	26	0	12	9	3	8	7	1	9	9	0	
運輸業、郵便業	435	409	26	216	202	14	62	61	1	59	58	1	38	37	1	8	8	0	50	41	9	
卸売業、小売業	1,623	1,441	182	842	743	99	132	121	11	266	244	22	122	117	5	37	34	3	224	182	42	
金融業、保険業	854	650	204	189	91	98	218	156	62	219	186	33	55	51	4	90	85	5	83	81	2	
不動産業、物品賃貸業	124	114	10	39	34	5	14	14	0	30	30	0	20	18	2	3	3	0	18	15	3	
学術研究、専門・技術サービス業	263	221	42	138	115	23	10	9	1	44	42	2	31	24	7	6	5	1	34	26	8	
宿泊業、飲食サービス業	650	607	43	445	421	24	34	30	4	73	68	5	36	36	0	31	29	2	31	23	8	
生活関連サービス業、娯楽業	274	233	41	113	91	22	13	11	2	69	66	3	22	19	3	12	11	1	45	35	10	
教育、学習支援業	791	569	222	318	203	115	127	92	35	138	116	22	79	65	14	53	40	13	76	53	23	
医療、福祉	3,109	1,527	1,582	1,306	480	826	199	89	110	647	308	339	281	184	97	166	113	53	510	353	157	
複合サービス事業	96	75	21	39	23	16	17	13	4	17	17	0	10	10	0	7	6	1	6	6	0	
サービス業	921	767	154	361	276	85	52	45	7	169	147	22	107	100	7	28	27	1	204	172	32	
従業員規模別																						
10~19人	2,170	1,672	498	727	528	199	134	100	34	381	326	55	206	176	30	115	90	25	607	452	155	
20~29人	1,508	1,187	321	548	414	134	101	81	20	285	245	40	162	136	26	71	60	11	341	251	90	
30~49人	2,069	1,591	478	790	539	251	124	107	17	401	337	64	253	218	35	87	74	13	414	316	98	
50~99人	2,313	1,834	479	969	716	253	197	144	53	480	406	74	245	229	16	103	85	18	319	254	65	
100~199人	1,856	1,473	383	927	688	239	158	121	37	387	340	47	157	139	18	57	48	9	170	137	33	
200~299人	1,134	924	210	582	451	131	86	84	2	255	203	52	85	76	9	11	11	0	115	99	16	
300人以上	6,461	5,618	843	4,025	3,500	525	422	335	87	1,281	1,102	179	426	393	33	157	150	7	150	138	12	

※役職制度なし、役職者数不明を除いて集計

	管理職計			係長・主任			課長代理			課長			部長			支社長・事業部長			役員			
	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	
全体 (単位:%)	100.0	81.6	18.4	48.9	39.0	9.9	7.0	5.6	1.4	19.8	16.9	2.9	8.8	7.8	1.0	3.4	2.9	0.5	12.1	9.4	2.7	
業種 (産業大分類)																						
農業、林業	100.0	87.9	12.1	15.2	9.1	6.1	0.0	0.0	0.0	6.1	6.1	0.0	3.0	3.0	0.0	3.0	3.0	0.0	63.8	57.7	6.1	
建設業	100.0	89.1	10.9	35.9	32.0	3.9	3.9	3.7	0.2	22.2	21.4	0.8	13.3	12.7	0.6	4.0	3.8	0.2	20.2	15.2	5.1	
製造業	100.0	91.8	8.2	56.9	51.7	5.2	4.3	4.1	0.2	20.4	19.7	0.8	8.4	8.1	0.2	1.5	1.5	0.0	8.5	6.7	1.8	
電気・ガス・熱供給・水道業	100.0	96.5	3.5	61.6	59.8	1.7	1.4	1.4	0.0	21.9	21.9	0.0	4.3	4.0	0.3	1.7	1.7	0.0	8.3	6.9	1.4	
情報通信業	100.0	91.9	8.1	47.6	42.8	4.8	7.3	7.3	0.0	21.0	21.0	0.0	9.7	7.3	2.4	6.5	5.6	0.8	7.3	7.3	0.0	
運輸業、郵便業	100.0	94.0	6.0	49.6	46.4	3.2	14.2	14.0	0.2	13.6	13.3	0.2	8.7	8.5	0.2	1.8	1.8	0.0	11.5	9.4	2.1	
卸売業、小売業	100.0	88.8	11.2	51.9	45.8	6.1	8.1	7.5	0.7	16.4	15.0	1.4	7.5	7.2	0.3	2.3	2.1	0.2	13.8	11.2	2.6	
金融業、保険業	100.0	76.1	23.9	22.1	10.7	11.5	25.5	18.3	7.3	25.6	21.8	3.9	6.4	6.0	0.5	10.5	10.0	0.6	9.7	9.5	0.2	
不動産業、物品賃貸業	100.0	91.9	8.1	31.5	27.4	4.0	11.3	11.3	0.0	24.2	24.2	0.0	16.1	14.5	1.6	2.4	2.4	0.0	14.5	12.1	2.4	
学術研究、専門・技術サービス業	100.0	84.0	16.0	52.5	43.7	8.7	3.8	3.4	0.4	16.7	16.0	0.8	11.8	9.1	2.7	2.3	1.9	0.4	12.9	9.9	3.0	
宿泊業、飲食サービス業	100.0	93.4	6.6	68.5	64.8	3.7	5.2	4.6	0.6	11.2	10.5	0.8	5.5	5.0	0.5	4.8	4.5	0.3	4.8	3.5	1.2	
生活関連サービス業、娯楽業	100.0	85.0	15.0	41.2	33.2	8.0	4.7	4.0	0.7	25.2	24.1	1.1	8.0	6.9	1.1	4.4	4.0	0.4	16.4	12.8	3.6	
教育、学習支援業	100.0	71.9	28.1	40.2	25.7	14.5	16.1	11.6	4.4	17.4	14.7	2.8	10.0	8.2	1.8	6.7	5.1	1.6	9.6	6.7	2.9	
医療、福祉	100.0	49.1	50.9	42.0	15.4	26.6	6.4	2.9	3.5	20.8	9.9	10.9	9.0	5.9	3.1	5.3	3.6	1.7	16.4	11.4	5.0	
複合サービス事業	100.0	78.1	21.9	40.6	24.0	16.7	17.7	13.5	4.2	17.7	17.7	0.0	10.4	10.4	0.0	7.3	6.3	1.0	6.3	6.3	0.0	
サービス業	100.0	83.3	16.7	39.2	30.0	9.2	5.6	4.9	0.8	18.3	16.0	2.4	11.6	10.9	0.8	3.0	2.9	0.1	22.1	18.7	3.5	
従業員規模別																						
10~19人	100.0	77.1	22.9	33.5	24.3	9.2	6.2	4.6	1.6	17.6	15.0	2.5	9.5	8.1	1.4	5.3	4.1	1.2	28.0	20.8	7.1	
20~29人	100.0	78.7	21.3	36.3	27.5	8.9	6.7	5.4	1.3	18.9	16.2	2.7	10.7	9.0	1.7	4.7	4.0	0.7	22.6	16.6	6.0	
30~49人	100.0	76.9	23.1	38.2	26.1	12.1	6.0	5.2	0.8	19.4	16.3	3.1	12.2	10.5	1.7	4.2	3.6	0.6	20.0	15.3	4.7	
50~99人	100.0	79.3	20.7	41.9	31.0	10.9	8.5	6.2	2.3	20.8	17.6	3.2	10.6	9.9	0.7	4.5	3.7	0.8	13.8	11.0	2.8	
100~199人	100.0	79.4	20.6	49.9	37.1	12.9	8.5	6.5	2.0	20.9	18.3	2.5	8.5	7.5	1.0	3.1	2.6	0.5	9.2	7.4	1.8	
200~299人	100.0	81.5	18.5	51.3	39.8	11.6	7.6	7.4	0.2	22.5	17.9	4.6	7.5	6.7	0.8	1.0	1.0	0.0	10.1	8.7	1.4	
300人以上	100.0	87.0	13.0	62.3	54.2	8.1	6.5	5.2	1.3	19.8	17.1	2.8	6.6	6.1	0.5	2.4	2.3	0.1	2.3	2.1	0.2	

※役職制度なし、役職者数不明を除いて集計

○参考値 (全国調査等の結果)

【平成 26 年雇用均等基本調査²⁾】

・係長相当職以上に占める女性の割合は 10.8% である。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。(下記参照)

²⁾平成 26 年に厚生労働省が実施した調査。常用労働者が 10 人以上の民間企業を対象に対して郵送による調査票の配布回収方法で実施。調査対象事業所数は 6,099 社、有効回答数は 4,160 社 (有効回収率 68.2%)。

働き方改善調査研究事業 報告書

(5) 1日の所定労働時間と週の所定労働時間

<全体結果>

1日の所定労働時間の平均は7.8時間、週の平均は37.2時間である。

<業種別の結果>

1日の所定労働時間に大きな違いは見られないものの、週の所定労働時間では、「不動産業、物品賃貸業（以下、不動産業等）」（39.5時間）、「教育、学習支援業」（38.8時間）、「複合サービス業」（38.6時間）、「金融・保険業」「宿泊・飲食」（38.5時間）などで全体平均を上回っている。

図表5 1日の所定労働時間と週の所定労働時間（問5）

		n	1日の所定労働時間 (平均)	n	週の所定労働時間 (平均)
(単位:時間)					
全体		1,672	7.8	1,586	37.2
業種大分類	農業, 林業	5	7.8	4	40.0
	建設業	92	7.7	86	37.5
	製造業	308	7.8	300	37.1
	電気, ガス, 熱供給, 水道業	20	7.8	20	37.0
	情報通信業	9	7.8	9	35.2
	運輸業, 郵便業	43	8.0	41	37.4
	卸売業, 小売業	247	7.7	232	36.5
	金融業, 保険業	76	7.6	66	38.5
	不動産業, 物品賃貸業	14	7.9	13	39.5
	学術研究, 専門・技術サービス業	29	7.6	27	37.3
	宿泊業, 飲食サービス業	96	7.9	91	38.5
	生活関連サービス業, 娯楽業	37	7.7	36	36.9
	教育, 学習支援業	90	7.7	74	38.8
	医療, 福祉	455	7.8	442	36.8
	複合サービス事業	22	7.6	22	38.6
サービス業	129	7.8	123	37.7	
従業員規模	10~19人	679	7.7	642	37.2
	20~29人	341	7.8	319	37.5
	30~49人	299	7.8	287	37.4
	50~99人	195	7.8	183	37.8
	100~199人	87	7.7	84	37.2
	200~299人	24	7.7	24	32.5
	300人以上	41	7.8	41	37.0

※それぞれ不明を除いて集計

○参考値（全国調査等の結果）

【平成27年就労条件総合調査³】

・1日の所定労働時間の平均は7.8時間、週の所定労働時間の平均は39.4時間となっている。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。（下記参照）

³平成26年度に厚生労働省が実施した調査。全国の16大産業〔鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業（その他の生活関連サービス業のうち、家事サービス業を除く。）、教育、学習支援業、医療、福祉、複合サービス事業及びサービス業（他に分類されないもの）（政治・経済・文化団体、宗教及び外国公務を除く。）〕に属する常用労働者が30人以上の民営法人に対して、平成27年1月1日現在を調査。郵送による調査票の配布回収及び調査員が回収する方法で実施。調査対象数は6,302社、有効回答数は4,432社（有効回収率70.3%）。

(6) 適用している週休制度

<全体結果>

回答事業所が適用している週休制度は、「完全週休 2 日制」(40.2%) が最多、「完全週休 2 日制より休日日数が実質的に少ない制度⁴⁾」(29.1%) と、これらを合わせた「何らかの週休 2 日制」を採用している事業所は 69.3% である。一方、「週休 1 日制又は週休 1 日半制⁵⁾」の事業所も 13.4% である。

<業種別の結果>

「何らかの週休 2 日制」を採用している事業所の割合が高い業種は、「複合サービス事業」(95.5%)、「電気、ガス等」(95.0%)、「金融・保険業」(88.6%)、「製造業」(80.6%)、「不動産業等」(80.0%) などである。一方、「何らかの週休 2 日制」を採用している事業所の割合が低い業種は、「宿泊・飲食」(50.0%)、「運輸・郵便業」(55.1%) などである。また、「建設業」や「宿泊・飲食」、「教育、学習支援業」では、「週休 1 日制又は週休 1 日半制」の事業所が 20% を超えており、週の所定労働時間の長さに影響していると考えられる。

<従業員規模別の結果>

従業員規模が大きいほど「何らかの週休 2 日制」を採用している事業所の割合は高く、80% 程度を占めている。

○参考値（全国調査等の結果）

【平成 27 年就労条件総合調査】

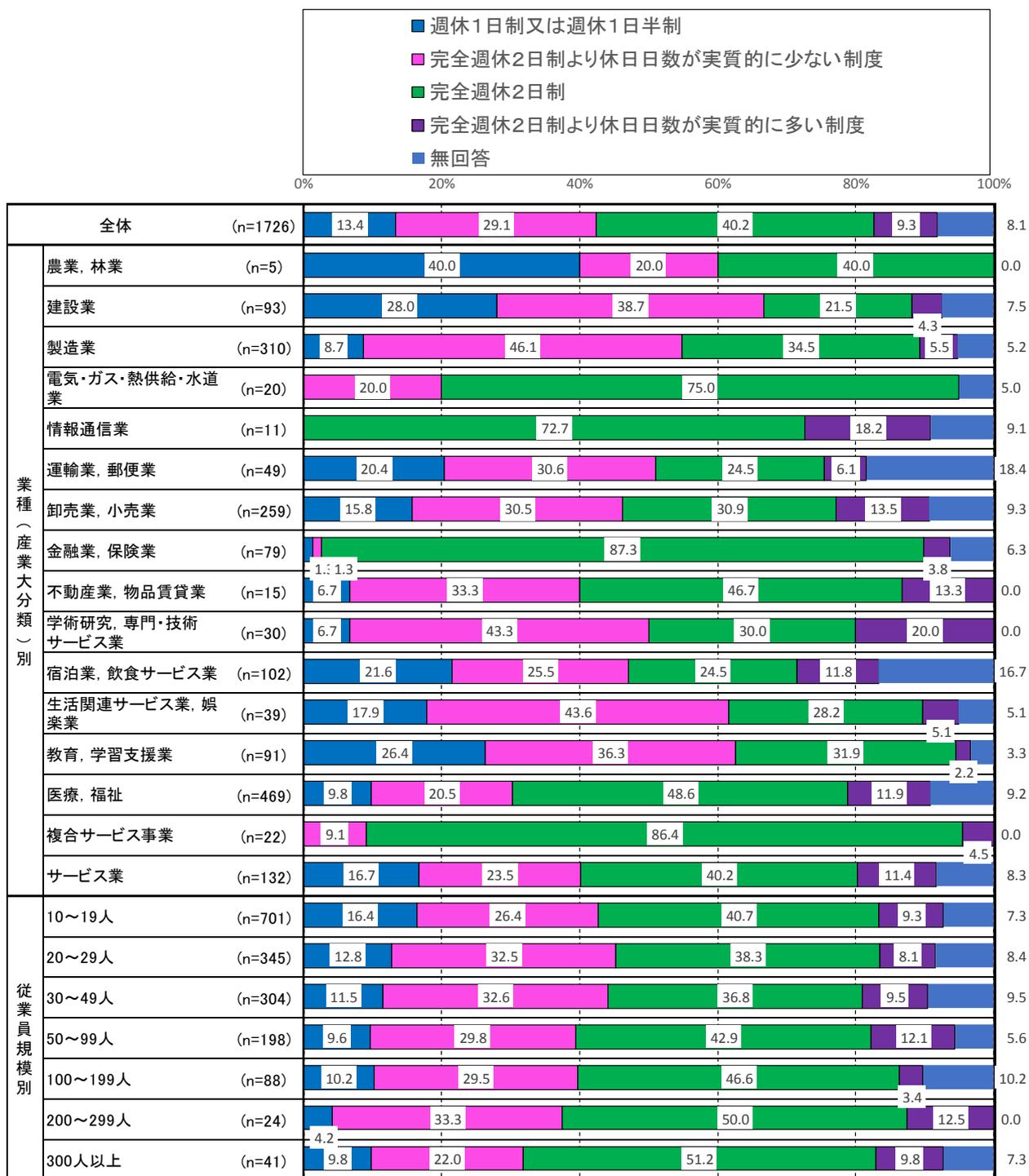
・「完全週休 2 日制」は 50.7%、「完全週休 2 日制より休日日数が実質的に少ない制度」は 34.5% と、これらを合わせた「何らかの週休 2 日制」を採用している事業所は 85.2% である。「週休 1 日制又は週休 1 日半制」の事業所は 6.8% である。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。(p6 参照)

⁴月 3 回、隔週、月 2 回、月 1 回の週休 2 日制他など

⁵週に 1 日の休みまたは週に 1 日休みと土曜日の半日休みなど

図表6 適用している週休制度（問6）



働き方改善調査研究事業 報告書

2. 労働実態

(1) 変形労働時間制の採用状況

<全体結果>

一定の単位期間について、週あたりの平均労働時間が週法定労働時間の枠内に収まっていれば、1週または1日の法定労働時間の規制を解除することを認める変形労働時間制の採用状況をみると、「採用している」が50.8%、「採用していない」が46.0%である。

<業種別の結果>

「採用している」割合が高い業種は「電気、ガス等」(80.0%)や「運輸・郵便業」(73.5%)などである。一方、「採用していない」割合が高い業種は「情報通信業」(72.7%)や「サービス業」(65.9%)、「金融・保険業」(63.3%)などである。

<従業員規模別の結果>

従業員規模が大きい事業所ほど「採用している」割合が高く、300人以上の事業所では70%を超えている。

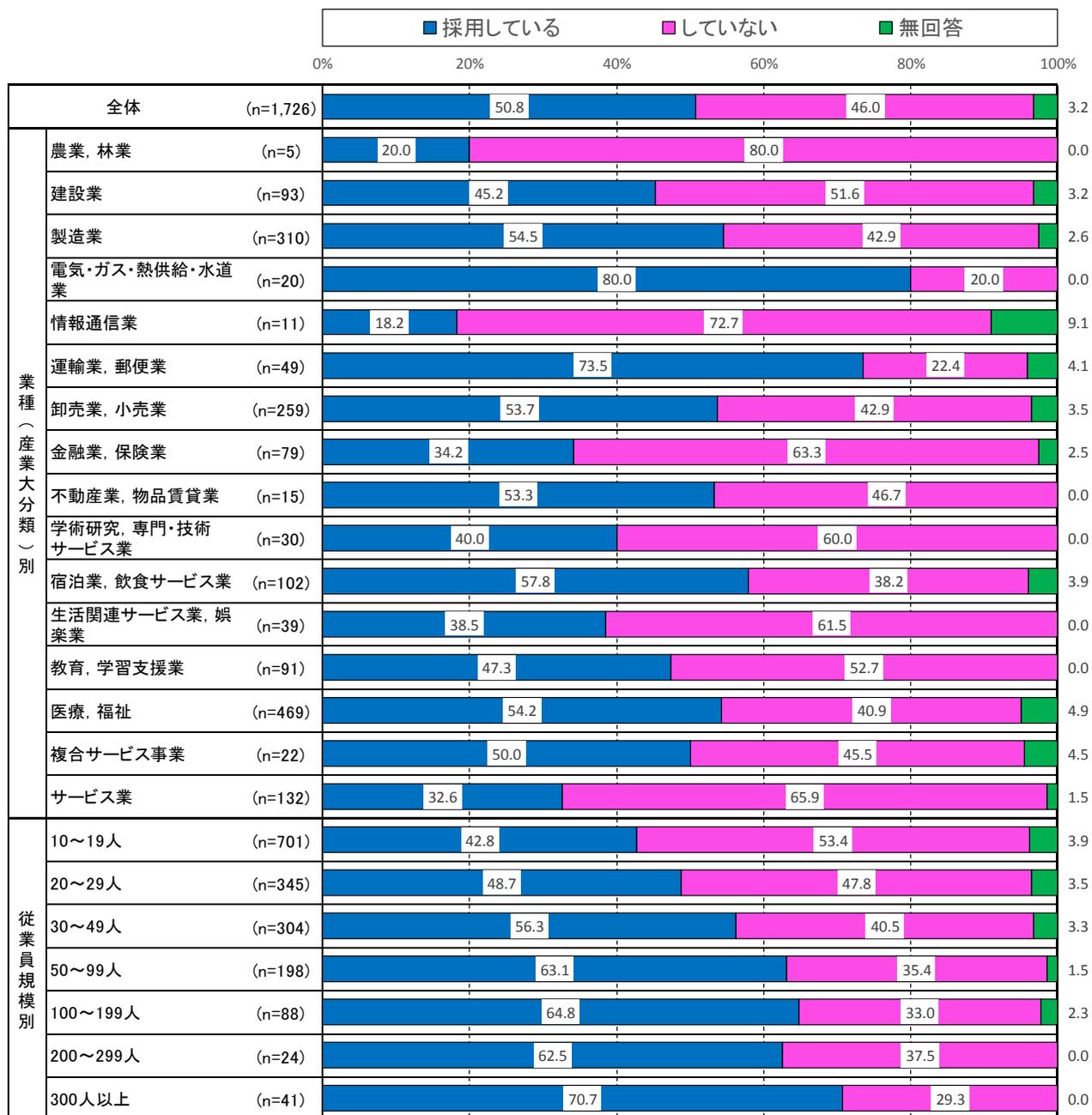
○参考値(全国調査等の結果)

【平成27年就労条件総合調査】

・変形労働時間制を採用している事業所は52.8%である。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。(P6参照)

図表 7 変形労働時間制の採用状況（問9）



働き方改善調査研究事業 報告書

(2) 採用している変形労働時間制の種類

<全体結果>

変形労働制を採用している 877 事業所に対して、その種類をたずねたところ、最も多いのは「1 か月単位の変形労働時間制」で 45.4%、次に「1 年単位の変形労働時間制」で 39.7%と、この 2 つで 80%を占めている。

<業種別の結果>

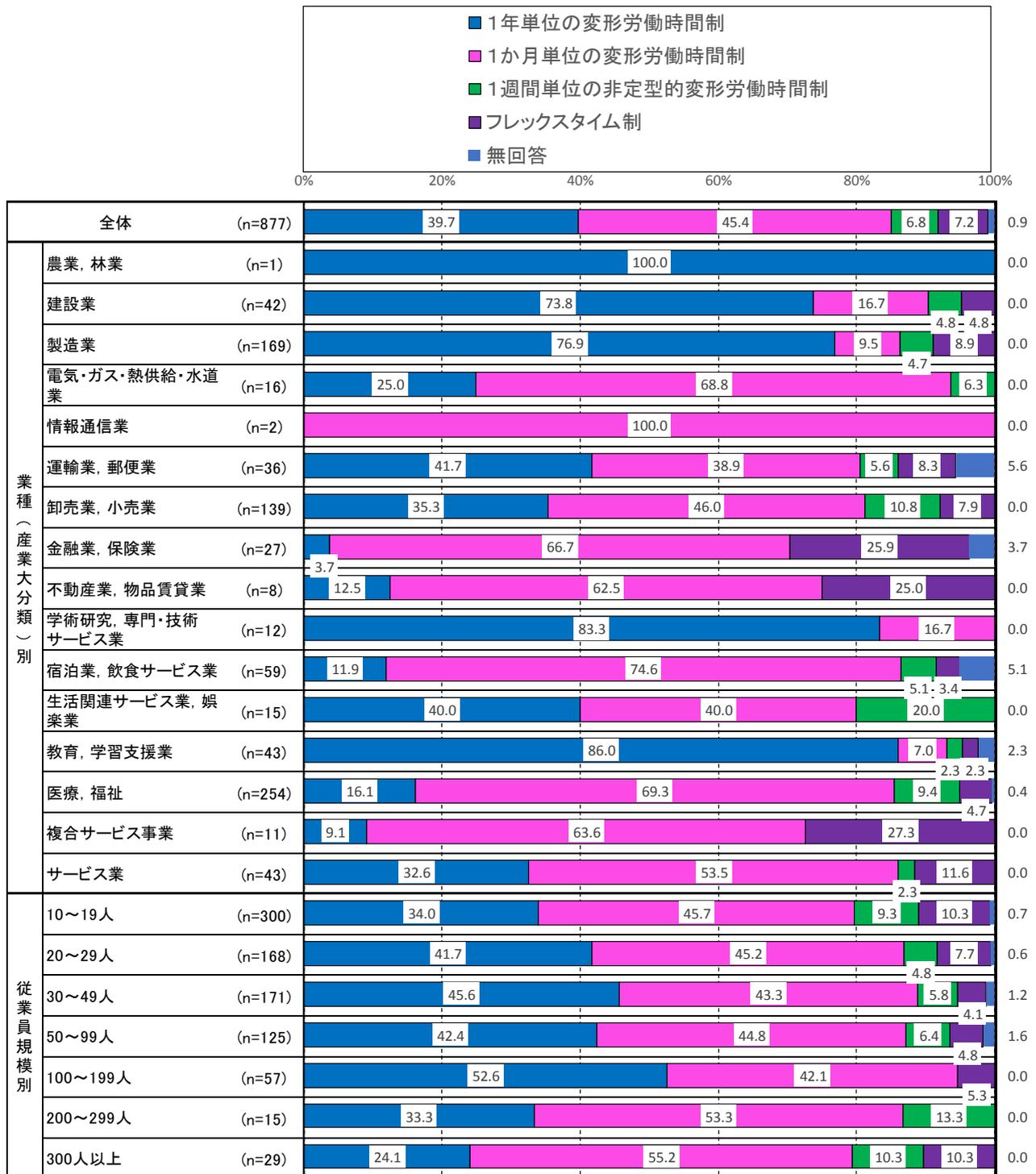
「1 か月単位の変形労働時間制」の割合が高い業種は「宿泊・飲食」(74.6%)や「医療、福祉」(69.3%)、「電気、ガス等」(68.8%)、「金融・保険業」(66.7%)、「複合サービス業」(63.6%)、「不動産業等」(62.5%) などである。

「1 年単位の変形労働時間制」の割合が高い業種は「教育、学習支援業」(86.0%)や「学術研究等」(83.3%)、「製造業」(76.9%)、「建設業」(73.8%) などである。

<従業員規模別の結果>

従業員数規模が小さい事業所(19 人以下)や規模が大きい事業所(200 人以上)で「1 ヶ月単位の変形労働時間制」の割合が高く、過半数を占めており、中規模の事業所では「1 年単位の変形労働時間制」の割合が高くなっている。

図表 8 採用している変形労働時間制の種類（問 9 - 1）



※集計は変形労働時間制を採用している事業所を対象

働き方改善調査研究事業 報告書

(3) みなし労働時間制の採用状況

<全体結果>

みなし労働時間制を「採用している」事業所は 10.3%、「採用していない」事業所は 85.3%である。

<業種別の結果>

「採用している」割合が高い業種は「情報通信業」(36.4%)や「運輸・郵便業」(22.4%)、「卸・小売業」(19.3%)などである。

<従業員規模別の結果>

従業員規模が大きいほど「採用している」割合は高く、300人以上の事業所では20%を超えている。

図表9 みなし労働時間制の採用状況(問10)



○参考値(全国調査等の結果)

【平成27年就労条件総合調査】

・みなし労働時間制を採用している事業所は13.0%、採用していない事業所は87.0%である。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。(P6参照)

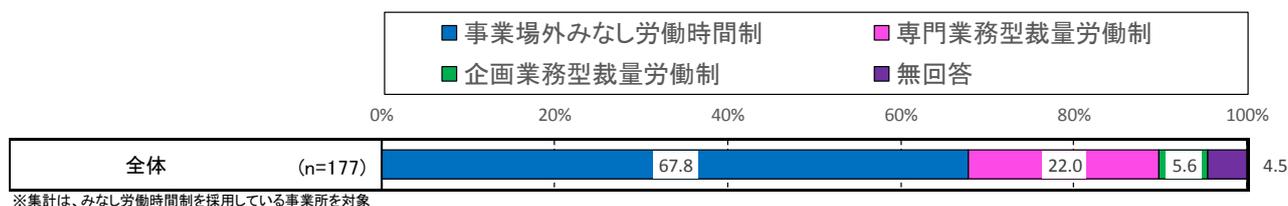
働き方改善調査研究事業 報告書

(4) 採用しているみなし労働時間制の種類

<全体結果>

みなし労働時間制を採用している 177 事業所に対して、その種類をたずねたところ、最も多かったのは「事業場外みなし労働時間制」で 67.8%（全回答事業所に占める割合；7.0%）、次に「専門業務型裁量労働制」で 22.0%（同；2.3%）、「企画業務型裁量労働制」は 5.6%（同；0.6%）である。就労条件総合調査では、「事業場外みなし労働時間制」（同；11.3%）、「専門業務型裁量労働制」（同；3.1%）、「企画業務型裁量労働制」（同；0.8%）と、これらと比較すると、ほぼ同じとなっている。

図表 10 採用しているみなし労働時間制の種類（問 10-1）

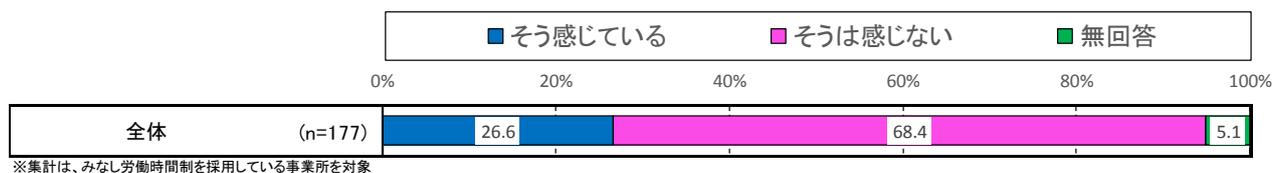


(5) みなし労働時間制に起因する長時間労働

<全体結果>

みなし労働時間制を採用している 177 事業所に対して、みなし労働時間性を採用することによる、従業員の労働時間が長くなっていると感じるかどうかをたずねたところ、「そう感じている」は 26.6%、「そうは感じない」は 68.4%である。

図表 11 みなし労働時間制に起因する長時間労働（問 10-2）



働き方改善調査研究事業 報告書

(6) 平成 27 年 9 月の正社員の平均残業時間

<全体結果>

平成 27 年 9 月の正社員の平均残業時間は、「0 時間」が 14.2%に対し、「1～9 時間」が 40.2%、「10～19 時間」が 18.8%、「20～29 時間」が 11.2%と、残業時間が 1 時間以上 29 時間以下の事業所が 70%、30 時間以上の事業所が 11.6%を占めている。

<業種別の結果>

平均残業時間が「0 時間」の事業所割合が高い業種は、「教育、学習支援業」(31.9%)や「生活関連等」(25.6%)などである。一方、平均残業時間が 30 時間以上の事業所割合が高い業種は、「運輸・郵便業」(38.7%)や「建設業」(23.7%)、「宿泊・飲食」(22.6%)、「不動産業等」「学術研究等」(20.0%)などである。

<従業員規模別の結果>

従業員規模が小さいほど平均残業時間が「0 時間」の事業所割合が高くなっている。

○参考値（全国調査等の結果）

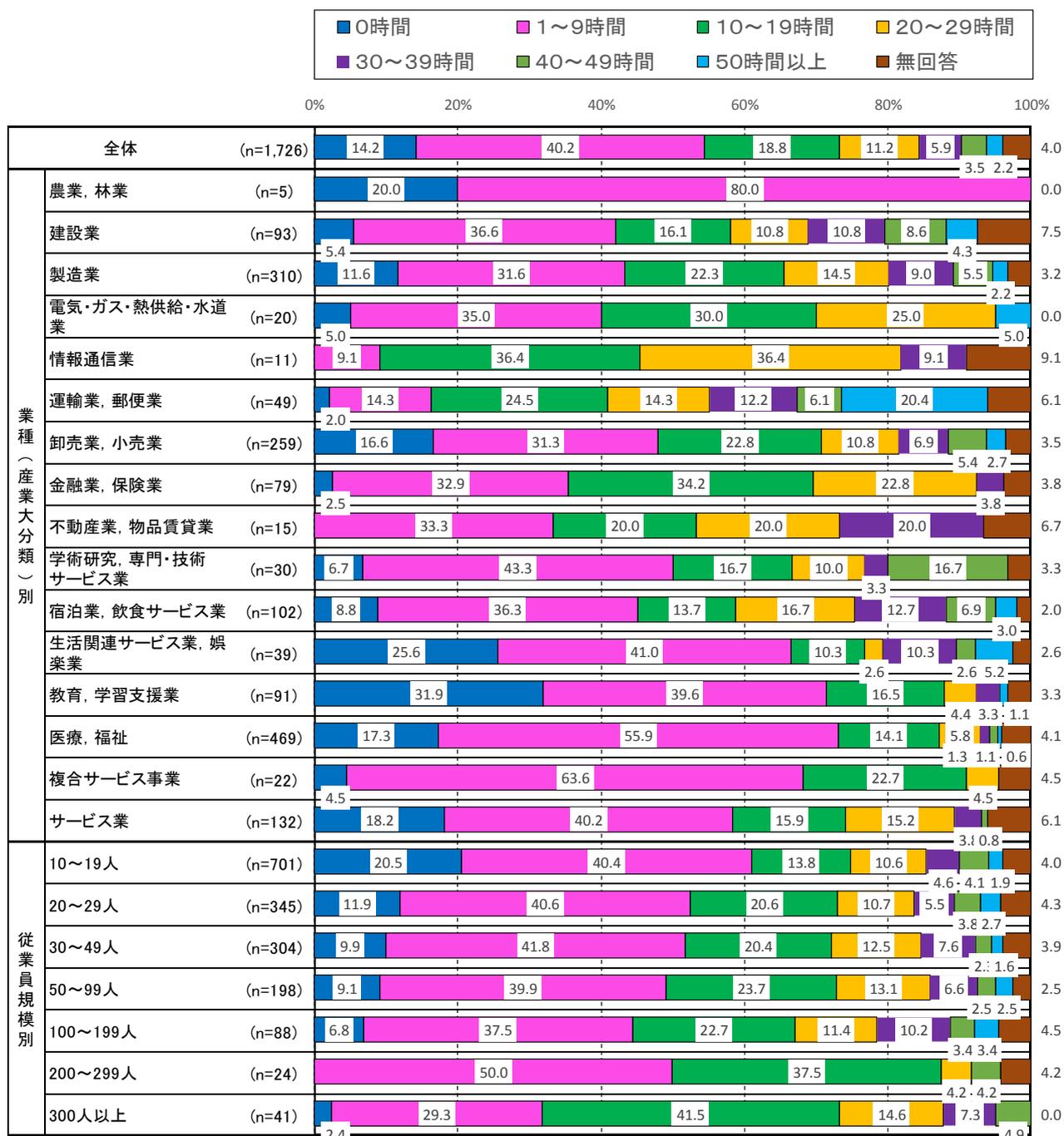
【企業のワーク・ライフ・バランスに関する調査⁶】

・平均的な残業時間は「0 時間」が 2.3%、「1～9 時間」が 17.3%、「10～19 時間」が 24.2%、「20～29 時間」が 22.6%と、残業時間が 29 時間以下の事業所が 64%、30 時間以上の事業所は 33%を占めている。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。（下記参照）

⁶平成 26 年に内閣府が実施した調査。全国の建設業、運輸業、小売業、飲食業に該当する従業員規模が 100 人～999 人の企業 3,000 社に対して郵送による配布回収方法で実施。回収数は 1,016 社（回収率 33.9%）。

図表 1 2 平成 27 年 9 月の正社員の平均残業時間（問 1 1）



働き方改善調査研究事業 報告書

(7) 長時間労働の発生状況

<全体結果>

長時間労働が発生している状況（役職、部署）は、「役職に関わらず、特定の部署で多い」(29.9%)がもっとも多く、次に「役職、部署に関わらず全般的に多い」(26.0%)が多くなっている。

<業種別の結果>

「役職に関わらず、特定の部署で多い」の事業所割合が高い業種は、「生活関連等」(50.0%)、「製造業」(41.6%)、「建設業」(40.4%)などである。「役職、部署に関わらず全般的に多い」の事業所割合が高い業種は、「電気・ガス等」(66.7%)、「学術研究等」(50.0%)、「教育、学習支援業」(47.8%)などである。

<従業員規模別の結果>

従業員規模が大きい事業所ほど「役職に関わらず、特定の部署で多い」の割合が高くなっている。

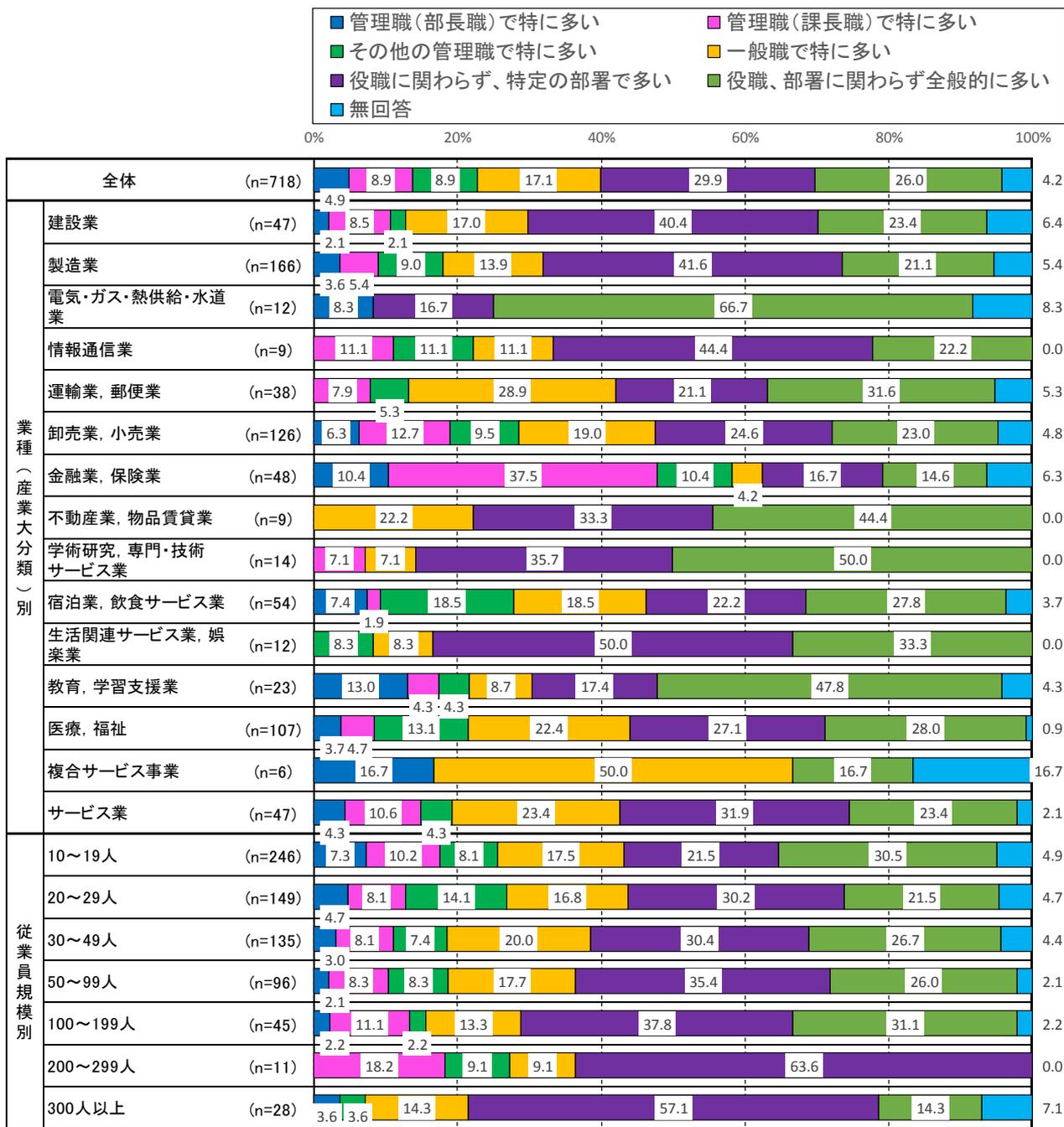
○参考値（全国調査等の結果）

【企業のワーク・ライフ・バランスに関する調査】

・「役職に関わらず、特定の部署で多い」(42.0%)、「役職、部署に関わらず全般的に多い」(13.6%)となっている。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。(p15 参照)

図表 1 3 長時間労働の発生状況（問 1 2）



※集計は、平成27年9月の平均的な残業時間が10時間/月以上の事業所を対象

働き方改善調査研究事業 報告書

(8) 直近1年間の従業員1人あたり年次有給休暇付与・取得日数

<全体結果>

直近1年間の従業員1人あたりの年次有給休暇付与日数（以下、付与日数）の平均は15日（付与日数の不明を除いた事業所で集計）、年次有給休暇取得日数（以下、取得日数）は7日（同）、年次有給休暇取得率（以下、取得率）は47.0%（同）である。

<業種別の結果>

取得率が高い業種は、「医療・福祉」（54.8%）、「運輸・郵便業」（53.7%）、「サービス業」（53.5%）、「学術研究等」（51.6%）などで過半数を占めている。一方、取得率が低い業種は、「卸・小売業」（35.0%）、「複合サービス業」（36.6%）、「教育、学習支援業」（38.1%）、「電気・ガス等」（39.4%）などで40%を下回っている。

<従業員規模別の結果>

従業員数200～299人の事業所で取得率が51.2%と半数を超えているものの、それ以外では大きな差は見られない。

図表14 従業員1人あたり年次有給休暇付与・取得日数・取得率（問13）

	n	付与日数		取得日数		b / a * 100 %	
		合計	平均	合計	平均		
		a		b			
全体	1,542	22,953	15	10,782	7	47.0%	
業種 (産業大分類) 別	農業、林業	5	86	17	19	5	22.1%
	建設業	82	1,267	16	525	6	41.4%
	製造業	288	4,542	16	2,234	8	49.2%
	電気・ガス・熱供給・水道業	20	378	19	149	10	39.4%
	情報通信業	8	149	19	94	12	63.1%
	運輸業、郵便業	43	680	16	365	9	53.7%
	卸売業、小売業	220	2,913	13	1,021	5	35.0%
	金融業、保険業	73	1,361	19	587	8	43.1%
	不動産業、物品賃貸業	15	224	15	98	7	43.8%
	学術研究、専門・技術サービス業	28	442	16	228	8	51.6%
	宿泊業、飲食サービス業	80	915	11	366	4	40.0%
	生活関連サービス業、娯楽業	38	476	13	226	6	47.5%
	教育、学習支援業	87	1,474	17	561	7	38.1%
	医療、福祉	411	5,734	14	3,144	8	54.8%
	複合サービス事業	22	429	20	157	7	36.6%
サービス業	122	1,883	15	1,008	8	53.5%	
従業員規模別	10～19人	616	8,631	14	4,126	7	47.8%
	20～29人	298	4,434	15	2,034	7	45.9%
	30～49人	281	4,357	16	2,057	7	47.2%
	50～99人	184	2,949	16	1,290	7	43.7%
	100～199人	82	1,310	16	633	8	48.3%
	200～299人	24	404	17	207	9	51.2%
	300人以上	38	635	17	302	8	47.6%

※付与日数の不明を除いて集計

○参考値（全国調査等の結果）

【平成27年就労条件総合調査】

・従業員1人あたりの年次有給休暇付与日数の平均は18.4日、年次有給休暇取得日数の平均は8.8日、年次有給休暇取得率は47.6%である。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。（P6参照）

働き方改善調査研究事業 報告書

3. 従業員の定着状況

(1) 直近1年間の従業員採用の有無

<全体結果>

直近1年間（平成26年9月～平成27年8月）に従業員を採用した事業所は79.9%で、採用していない事業所は18.3%となっている。

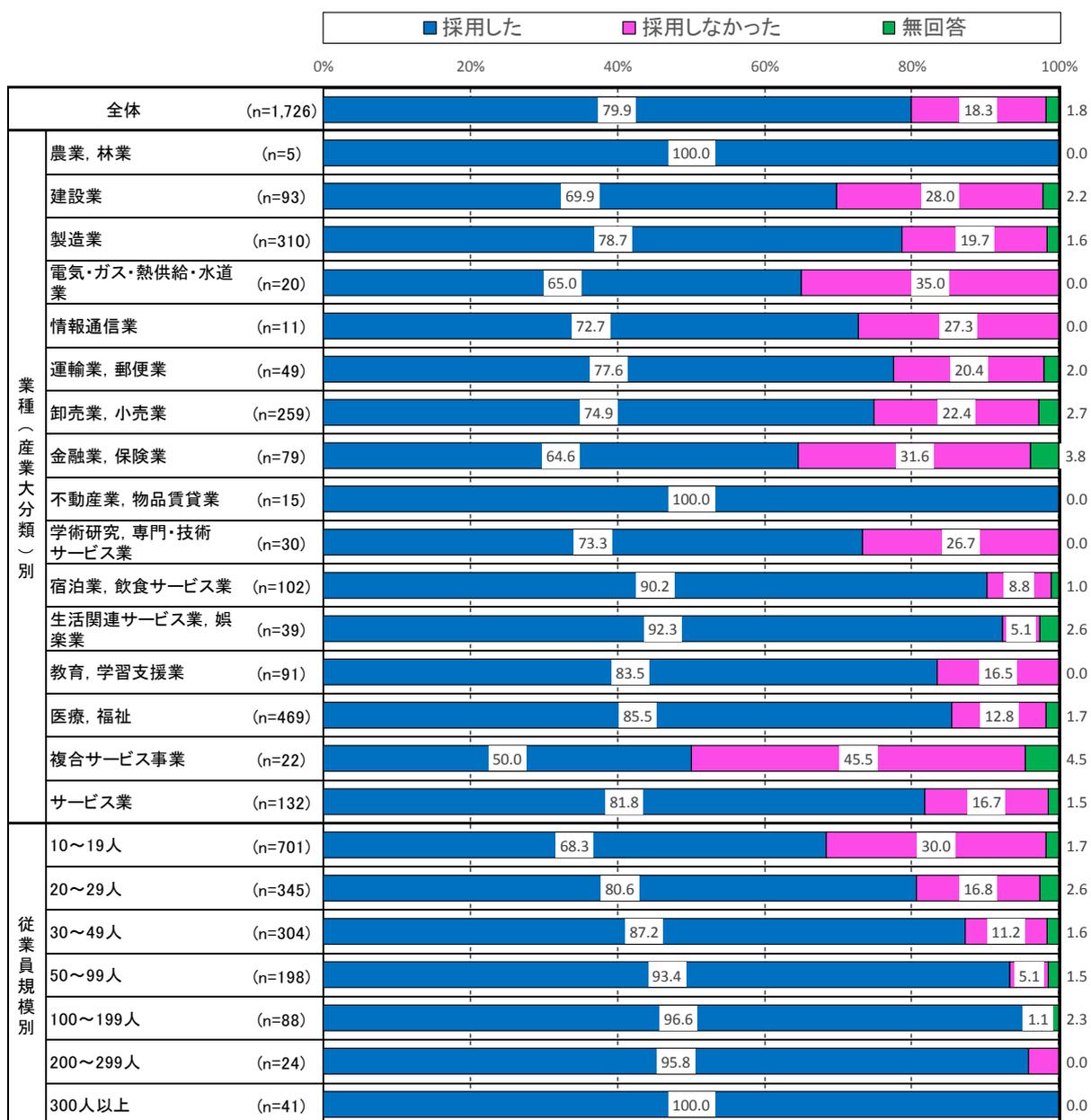
<業種別の結果>

採用した事業所割合が高い業種は、「不動産業等」（100.0%）、「生活関連等」（92.3%）、「宿泊・飲食」（90.2%）となっている。一方、採用した事業所割合が低い業種は、「複合サービス業」（50.0%）、「金融・保険業」（64.6%）、「電気・ガス等」（65.0%）などとなっている。

<従業員規模別の結果>

従業員規模が大きいほど採用した事業所割合は高く、50人以上の規模では90%以上となっている。

図表15 直近1年間の従業員採用の有無（問7）



働き方改善調査研究事業 報告書

(2) 性別・雇用形態別採用人数

<全体結果>

直近1年間（平成26年9月～平成27年8月）で採用した従業員数は14,612人となっており、そのうち正社員は4,049人（27.7%）、非正規社員は10,563人（72.3%）となっている。

正社員のうち、男性は2,193人（15.0%）、女性は1,857人（12.7%）と男性の方が多い。

非正規社員のうち、もっとも多いのは「パート・女性」で3,938人（27.0%）、次に「アルバイト・女性」で1,664人（11.4%）、「アルバイト・男性」が1,397人（9.6%）、「パート・男性」が1,197人（8.2%）と、非正規社員の中で「パート」「アルバイト」が占める割合は56.2%となっている。

<業種別の結果>

正社員の割合が高い業種は、「建設業」（87.6%）、「電気・ガス等」（80.3%）、「金融・保険業」（79.6%）、「情報通信業」（65.6%）、「複合サービス業」（61.9%）などとなっている。一方、正社員の割合が低い業種は、「宿泊・飲食」（5.9%）、「卸・小売業」（13.7%）、「生活関連等」（14.4%）、「サービス業」（18.9%）となっている。

「建設業」や「電気・ガス等」では「男性正社員」が70%以上を占めており、「金融・保険業」では「女性正社員」が過半数を占めている。

「パート・女性」の割合が高い業種は、「卸・小売業」（34.8%）、「医療、福祉」（33.6%）などとなっており、「アルバイト・女性」の割合が高い業種は、「宿泊・飲食」（33.5%）、「生活関連等」（25.4%）、「卸・小売業」（21.9%）などとなっている。

男女とも「契約社員」の割合が高い業種は、「学術研究等」（男性；23.3%、女性；29.6%）となっている。

<従業員規模別の結果>

従業員数が100～299人の事業所では約80%が非正規社員を採用しており、そのうち半数近くを女性が占めている。

○参考値（全国調査等の結果）

【平成26年雇用動向調査】

・入職者数合計は7978.5千人、一般労働者の入職者数は4452.7千人、雇用期間の定めなしの入職者数は4662.0千人、雇用期間の定めありの入職者数は3316.4千人である。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。（p3参照）

働き方改善調査研究事業 報告書

図表 16 性別・雇用形態別採用人数(問7-1)

業種(産業大分類)別	n	従業員計	男性従業員計	女性従業員計	正社員計	正社員		非正規社員計	男性派遣労働者	女性派遣労働者	男性契約社員	女性契約社員	嘱託・男性	嘱託・女性	男性パート	女性パート	男性アルバイト	女性アルバイト	男性その他	女性その他
						男性	女性													
全体	1,372	14,612	5,972	8,640	4,049	2,192	1,857	10,563	587	560	331	393	91	58	1,197	3,938	1,397	1,664	177	170
農業、林業	5	15	8	7	6	5	1	9	0	0	0	0	0	0	3	4	0	0	0	2
建設業	65	322	235	82	282	226	56	40	1	7	4	3	0	0	4	16	5	0	0	0
製造業	243	2,765	1,374	1,048	791	596	195	1,974	504	290	60	45	13	1	135	469	170	159	79	49
電気・ガス・熱供給・水道業	13	66	48	9	53	48	5	13	0	0	0	0	1	0	0	4	0	8	0	0
情報通信業	8	32	17	13	21	15	6	11	2	4	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0
運輸業、郵便業	38	385	123	55	112	96	16	273	1	1	16	3	2	2	6	34	159	44	4	1
卸売業、小売業	194	2,205	445	903	302	212	90	1,903	29	36	2	6	3	1	201	767	370	483	1	4
金融業、保険業	51	201	61	134	160	56	104	41	0	5	3	1	5	1	0	24	0	0	2	0
不動産業、物品賃貸業	15	72	29	30	27	15	12	45	3	4	3	4	1	0	8	10	6	6	0	0
学術研究、専門・技術サービス業	22	206	91	108	67	42	25	139	1	3	48	61	0	0	0	19	1	6	0	0
宿泊業、飲食サービス業	92	1,589	232	485	93	55	38	1,496	0	6	9	2	1	1	167	439	338	532	1	0
生活関連サービス業、娯楽業	36	465	90	156	67	41	26	398	4	14	4	5	8	0	37	107	93	118	4	4
教育、学習支援業	75	485	147	208	127	64	63	358	0	8	40	35	22	12	32	95	58	38	11	7
医療、福祉	396	4,578	1,225	2,988	1,700	562	1,138	2,878	24	114	112	120	21	35	464	1,538	112	197	63	78
複合サービス事業	11	21	8	11	13	6	7	8	0	0	0	0	0	0	2	4	0	2	0	0
サービス業	108	1,205	351	681	228	153	75	977	18	68	30	108	14	5	138	405	85	69	12	25
10~19人	478	1,603	461	733	503	291	212	1,100	11	26	14	17	11	5	136	466	180	213	9	12
20~29人	277	1,393	356	752	408	233	175	985	21	35	9	24	4	4	90	510	121	156	3	8
30~49人	262	1,896	486	850	529	286	243	1,367	33	44	22	34	17	19	131	498	344	180	14	31
50~99人	184	2,128	736	1,145	702	395	307	1,426	92	68	27	24	9	5	201	705	127	106	21	41
100~199人	85	2,087	628	1,127	480	256	224	1,607	99	184	28	42	26	14	190	607	141	151	55	70
200~299人	23	1,083	298	518	234	94	140	849	104	74	55	120	4	2	45	183	123	138	0	1
300人以上	41	3,638	1,410	1,540	1,125	610	515	2,513	227	128	167	130	20	9	334	761	211	448	72	6

※不明を除いて集計

業種(産業大分類)別	n	従業員計	男性従業員計	女性従業員計	正社員計	正社員		非正規社員計	男性派遣労働者	女性派遣労働者	男性契約社員	女性契約社員	嘱託・男性	嘱託・女性	男性パート	女性パート	男性アルバイト	女性アルバイト	男性その他	女性その他
						男性	女性													
全体	1,372	100.0	40.9	59.1	27.7	15.0	12.7	72.3	4.0	3.8	2.3	2.7	0.6	0.4	8.2	27.0	9.6	11.4	1.2	1.2
農業、林業	5	100.0	53.3	46.7	40.0	33.3	6.7	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	26.7	0.0	0.0	0.0	13.3
建設業	65	100.0	73.0	25.5	87.6	70.2	17.4	12.4	0.3	2.2	1.2	0.9	0.0	0.0	1.2	5.0	1.6	0.0	0.0	0.0
製造業	243	100.0	49.7	37.9	28.6	21.6	7.1	71.4	18.2	10.5	2.2	1.6	0.5	0.0	4.9	17.0	6.1	5.8	2.9	1.8
電気・ガス・熱供給・水道業	13	100.0	72.7	13.6	80.3	72.7	7.6	19.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	6.1	0.0	12.1	0.0	0.0
情報通信業	8	100.0	53.1	40.6	65.6	46.9	18.8	34.4	6.3	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.4	0.0	6.3	0.0	0.0
運輸業、郵便業	38	100.0	31.9	14.3	29.1	24.9	4.2	70.9	0.3	0.3	4.2	0.8	0.5	0.5	1.6	8.8	4.3	11.4	1.0	0.3
卸売業、小売業	194	100.0	20.2	41.0	13.7	9.6	4.1	86.3	1.3	1.6	0.1	0.3	0.1	0.0	9.1	34.8	16.8	21.9	0.0	0.2
金融業、保険業	51	100.0	30.3	66.7	79.6	27.9	51.7	20.4	0.0	2.5	1.5	0.5	2.5	0.5	0.0	11.9	0.0	0.0	1.0	0.0
不動産業、物品賃貸業	15	100.0	40.3	41.7	37.5	20.8	16.7	62.5	4.2	5.6	4.2	5.6	1.4	0.0	11.1	13.9	8.3	8.3	0.0	0.0
学術研究、専門・技術サービス業	22	100.0	44.2	52.4	32.5	20.4	12.1	67.5	0.5	1.5	23.3	29.6	0.0	0.0	0.0	9.2	0.5	2.9	0.0	0.0
宿泊業、飲食サービス業	92	100.0	14.6	30.5	5.9	3.5	2.4	94.1	0.0	0.4	0.6	0.1	0.1	0.1	10.5	27.6	21.3	33.5	0.1	0.0
生活関連サービス業、娯楽業	36	100.0	19.4	33.5	14.4	8.8	5.6	85.6	0.9	3.0	0.9	1.1	1.7	0.0	8.0	23.0	20.0	25.4	0.9	0.9
教育、学習支援業	75	100.0	30.3	42.9	26.2	13.2	13.0	73.8	0.0	1.6	8.2	7.2	4.5	2.5	6.6	19.6	12.0	7.8	2.3	1.4
医療、福祉	396	100.0	26.8	65.3	37.1	12.3	24.9	62.9	0.5	2.5	2.4	2.6	0.5	0.8	10.1	33.6	2.4	4.3	1.4	1.7
複合サービス事業	11	100.0	38.1	52.4	61.9	28.6	33.3	38.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5	19.0	0.0	9.5	0.0	0.0
サービス業	108	100.0	29.1	56.5	18.9	12.7	6.2	81.1	1.5	5.6	2.5	9.0	1.2	0.4	11.5	33.6	7.1	5.7	1.0	2.1
10~19人	478	100.0	28.8	45.7	31.4	18.2	13.2	68.6	0.7	1.6	0.9	1.1	0.7	0.3	8.5	29.1	11.2	13.3	0.6	0.7
20~29人	277	100.0	25.6	54.0	29.3	16.7	12.6	70.7	1.5	2.5	0.6	1.7	0.3	0.3	6.5	36.6	8.7	11.2	0.2	0.6
30~49人	262	100.0	25.6	44.8	27.9	15.1	12.8	72.1	1.7	2.3	1.2	1.8	0.9	1.0	6.9	26.3	18.1	9.5	0.7	1.6
50~99人	184	100.0	34.6	53.8	33.0	18.6	14.4	67.0	4.3	3.2	1.3	1.1	0.4	0.2	9.4	33.1	6.0	5.0	1.0	1.9
100~199人	85	100.0	30.1	54.0	23.0	12.3	10.7	77.0	4.7	8.8	1.3	2.0	1.2	0.7	9.1	29.1	6.8	7.2	2.6	3.4
200~299人	23	100.0	27.5	47.8	21.6	8.7	12.9	78.4	9.6	6.8	5.1	11.1	0.4	0.2	4.2	16.9	11.4	12.7	0.0	0.1
300人以上	41	100.0	38.8	42.3	30.9	16.8	14.2	69.1	6.2	3.5	4.6	3.6	0.5	0.2	9.2	20.9	5.8	12.3	2.0	0.2

※不明を除いて集計

働き方改善調査研究事業 報告書

(3) 直近1年間における離職者の有無（定年を含む）

＜全体結果＞

直近1年間（平成26年9月～平成27年8月）に離職した従業員（定年を含む）がいる事業所は82.5%で、離職した従業員がいない事業所は17.5%となっている。

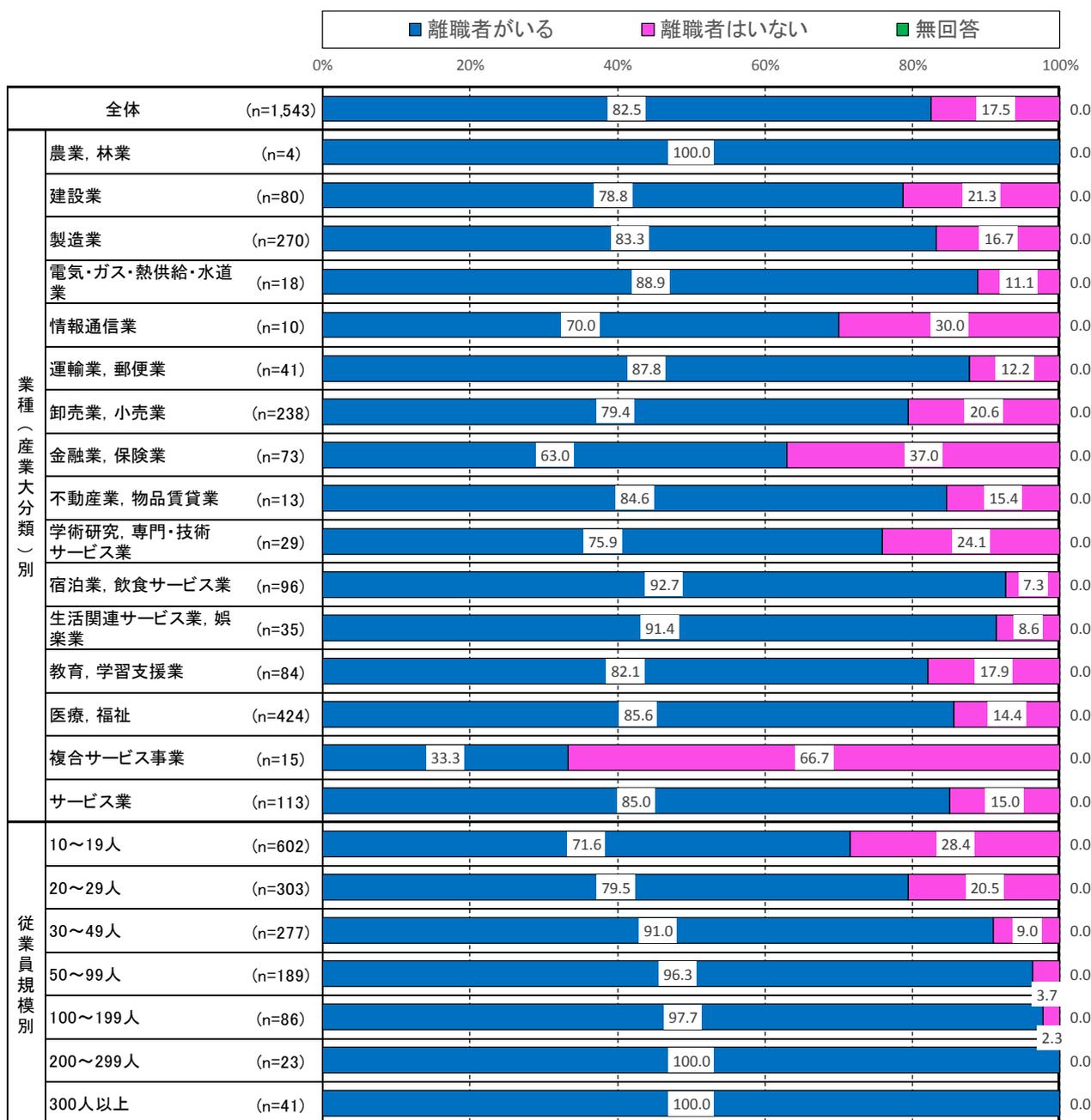
＜業種別の結果＞

離職した従業員がいる事業所割合が高い業種は、「宿泊・飲食」（92.7%）、「生活関連等」（91.4%）などとなっている。一方、離職した従業員がいる事業所割合が低い業種は、「複合サービス業」（33.3%）、「金融・保険業」（63.0%）などとなっている。

＜従業員規模別の結果＞

従業員規模が大きいほど離職者がいる割合が高くなっている。

図表17 直近1年間における離職者の有無（定年を含む）（問8）



働き方改善調査研究事業 報告書

(4) 直近 1 年間における離職者数

<全体結果>

直近 1 年間（平成 26 年 9 月～平成 27 年 8 月）で離職した従業員数は 11,309 人となっており、直近 1 年間の採用者数は 14,612 人であり、採用者に占める離職者の割合は 77.3%である。

離職者のうち正社員は 3,370 人（29.8%）、非正規社員は 7,939 人（70.2%）となっている。正社員のうち、男性は 1,753 人（15.5%）、女性は 1,617 人（14.3%）と男性の方が多い。

非正規社員のうち、もっとも多いのは「パート・女性」で 2,845 人（25.2%）、次に「アルバイト・女性」で 1,324 人（11.7%）、「アルバイト・男性」が 1,027 人（9.1%）、「パート・男性」が 876 人（7.7%）と、非正規社員の中で「パート」「アルバイト」が占める割合は 53.7%となっている。

<業種別の結果>

正社員の割合が高い業種は、「建設業」（84.8%）、「金融・保険業」（73.3%）、「電気・ガス等」（71.1%）、「情報通信業」（60.9%）などとなっている。一方、正社員の割合が低い業種は、「宿泊・飲食」（8.1%）、「卸・小売業」（14.3%）、「生活関連等」（17.1%）、「サービス業」（17.4%）となっている。

「建設業」や「電気・ガス等」、「情報通信業」では「男性正社員」が半数からそれ以上を占めており、「金融・保険業」では「女性正社員」が半数を占めている。

「パート・女性」と「アルバイト・女性」の割合が高い業種は、「卸・小売業」や「宿泊・飲食」などで過半数を占めている。

男女とも「契約社員」の割合が高い業種は、「学術研究等」（男性；30.8%、女性；34.4%）となっている。

いずれも、直近 1 年間の採用者数の傾向と近似しており、従業員の離職を補うための採用が中心となっており、投資としての採用にまでは至っていない感が見受けられる。

○参考値（全国調査等の結果）

【平成 26 年雇用動向調査】

・離職者数合計は 7133.5 千人、一般労働者の離職者数は 4166.6 千人、うち雇用期間の定めなしの離職者数は 2906.3 千人、雇用期間の定めありの離職者数は 1260.2 千人である。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。（p3 参照）

働き方改善調査研究事業 報告書

図表18 直近1年間における離職者数(問8-1)

	n	離職者数計	男性離職者計	女性離職者計	正社員計	正社員		非正規社員計	男性派遣労働者	女性派遣労働者	男性契約社員	女性契約社員	嘱託・男性	嘱託・女性	男性パート	女性パート	男性アルバイト	女性アルバイト	男性その他	女性その他
						男性	女性													
全体	1,701	11,309	4,654	6,655	3,370	1,753	1,617	7,939	351	311	318	350	125	83	876	2,845	1,027	1,324	204	125
業種(産業大分類)別																				
農業、林業	5	14	8	6	6	4	2	8	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	2
建設業	93	197	146	45	167	139	28	30	1	5	2	1	1	0	4	11	5	0	0	0
製造業	309	2,279	1,137	813	671	528	143	1,608	299	177	60	42	35	12	107	384	141	141	143	67
電気・ガス・熱供給・水道業	20	76	44	17	54	41	13	22	0	0	1	0	0	1	2	4	1	13	0	0
情報通信業	10	23	17	6	14	11	3	9	1	1	4	1	0	0	1	1	0	0	0	0
運輸業、郵便業	47	253	87	20	74	67	7	179	1	0	8	1	2	0	7	11	108	36	4	1
卸売業、小売業	257	1,774	361	607	254	175	79	1,520	5	8	2	3	6	1	173	517	332	467	6	0
金融業、保険業	79	146	51	90	107	39	68	39	0	4	2	0	5	0	9	18	0	0	1	0
不動産業、物品賃貸業	14	61	17	16	15	8	7	46	2	2	1	0	0	0	6	7	13	15	0	0
学術研究、専門・技術サービス業	29	227	108	111	55	37	18	172	1	0	70	78	0	0	0	15	1	7	0	0
宿泊業、飲食サービス業	99	900	148	254	73	42	31	827	0	2	9	0	3	1	96	221	170	324	1	0
生活関連サービス業、娯楽業	37	414	85	141	71	45	26	343	2	21	1	3	14	7	35	91	75	92	2	0
教育、学習支援業	91	452	148	173	119	63	56	333	0	7	34	24	21	14	33	76	55	41	18	10
医療、福祉	458	3,524	863	2,405	1,521	443	1,078	2,003	19	60	101	112	31	43	272	1,121	41	141	28	34
複合サービス事業	22	8	3	5	2	1	1	6	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0
サービス業	131	961	279	539	167	110	57	794	20	24	23	85	7	4	125	362	85	47	1	11
従業員規模別																				
10~19人	701	1,212	342	540	372	224	148	840	6	19	14	14	11	9	94	355	144	166	4	4
20~29人	345	830	210	399	247	126	121	583	0	5	9	27	5	1	73	243	100	115	2	3
30~49人	304	1,478	419	629	414	231	183	1,064	27	21	18	32	18	6	129	380	230	176	14	13
50~99人	198	1,580	523	870	555	269	286	1,025	74	51	22	20	14	9	137	489	99	65	21	24
100~199人	88	1,777	545	864	458	242	216	1,319	84	121	24	29	22	29	149	447	169	148	46	51
200~299人	24	891	239	442	242	100	142	649	60	46	44	87	7	11	35	166	77	115	0	1
300人以上	41	3,210	1,177	1,431	1,024	542	482	2,186	100	47	184	141	48	18	237	734	160	376	114	27

※不明を除いて集計

	n	離職者数計	男性離職者計	女性離職者計	正社員計	正社員		非正規社員計	男性派遣労働者	女性派遣労働者	男性契約社員	女性契約社員	嘱託・男性	嘱託・女性	男性パート	女性パート	男性アルバイト	女性アルバイト	男性その他	女性その他
						男性	女性													
全体	1,701	100.0	41.2	58.8	29.8	15.5	14.3	70.2	3.1	2.8	2.8	3.1	1.1	0.7	7.7	25.2	9.1	11.7	1.8	1.1
業種(産業大分類)別																				
農業、林業	5	100.0	57.1	42.9	42.9	28.6	14.3	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3
建設業	93	100.0	74.1	22.8	84.8	70.6	14.2	15.2	0.5	2.5	1.0	0.5	0.5	0.0	2.0	5.6	2.5	0.0	0.0	0.0
製造業	309	100.0	49.9	35.7	29.4	23.2	6.3	70.6	13.1	7.8	2.6	1.8	1.5	0.5	4.7	16.8	6.2	6.2	6.3	2.9
電気・ガス・熱供給・水道業	20	100.0	57.9	22.4	71.1	53.9	17.1	28.9	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	1.3	2.6	5.3	1.3	17.1	0.0	0.0
情報通信業	10	100.0	73.9	26.1	60.9	47.8	13.0	39.1	4.3	4.3	17.4	4.3	0.0	0.0	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業、郵便業	47	100.0	34.4	7.9	29.2	26.5	2.8	70.8	0.4	0.0	3.2	0.4	0.8	0.0	2.8	4.3	42.7	14.2	1.6	0.4
卸売業、小売業	257	100.0	20.3	34.2	14.3	9.9	4.5	85.7	0.3	0.5	0.1	0.2	0.3	0.1	9.8	29.1	18.7	26.3	0.3	0.0
金融業、保険業	79	100.0	34.9	61.6	73.3	26.7	46.6	26.7	0.0	2.7	1.4	0.0	3.4	0.0	6.2	12.3	0.0	0.0	0.7	0.0
不動産業、物品賃貸業	14	100.0	27.9	26.2	24.6	13.1	11.5	75.4	3.3	3.3	1.6	0.0	0.0	0.0	9.8	11.5	21.3	24.6	0.0	0.0
学術研究、専門・技術サービス業	29	100.0	47.6	48.9	24.2	16.3	7.9	75.8	0.4	0.0	30.8	34.4	0.0	0.0	0.0	6.6	0.4	3.1	0.0	0.0
宿泊業、飲食サービス業	99	100.0	16.4	28.2	8.1	4.7	3.4	91.9	0.0	0.2	1.0	0.0	0.3	0.1	10.7	24.6	18.9	36.0	0.1	0.0
生活関連サービス業、娯楽業	37	100.0	20.5	34.1	17.1	10.9	6.3	82.9	0.5	5.1	0.2	0.7	3.4	1.7	8.5	22.0	18.1	22.2	0.5	0.0
教育、学習支援業	91	100.0	32.7	38.3	26.3	13.9	12.4	73.7	0.0	1.5	7.5	5.3	4.6	3.1	7.3	16.8	12.2	9.1	4.0	2.2
医療、福祉	458	100.0	24.5	68.2	43.2	12.6	30.6	56.8	0.5	1.7	2.9	3.2	0.9	1.2	7.7	31.8	1.2	4.0	0.8	1.0
複合サービス事業	22	100.0	37.5	62.5	25.0	12.5	12.5	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	131	100.0	29.0	56.1	17.4	11.4	5.9	82.6	2.1	2.5	2.4	8.8	0.7	0.4	13.0	37.7	8.8	4.9	0.1	1.1
従業員規模別																				
10~19人	701	100.0	28.2	44.6	30.7	18.5	12.2	69.3	0.5	1.6	1.2	1.2	0.9	0.7	7.8	29.3	11.9	13.7	0.3	0.3
20~29人	345	100.0	25.3	48.1	29.8	15.2	14.6	70.2	0.0	0.6	1.1	3.3	0.6	0.1	8.8	29.3	12.0	13.9	0.2	0.4
30~49人	304	100.0	28.3	42.6	28.0	15.6	12.4	72.0	1.8	1.4	1.2	2.2	1.2	0.4	8.7	25.7	15.6	11.9	0.9	0.9
50~99人	198	100.0	33.1	55.1	35.1	17.0	18.1	64.9	4.7	3.2	1.4	1.3	0.9	0.6	8.7	30.9	6.3	4.1	1.3	1.5
100~199人	88	100.0	30.7	48.6	25.8	13.6	12.2	74.2	4.7	6.8	1.4	1.6	1.2	1.6	8.4	25.2	9.5	8.3	2.6	2.9
200~299人	24	100.0	26.8	49.6	27.2	11.2	15.9	72.8	6.7	5.2	4.9	9.8	0.8	1.2	3.9	18.6	8.6	12.9	0.0	0.1
300人以上	41	100.0	36.7	44.6	31.9	16.9	15.0	68.1	3.1	1.5	5.7	4.4	1.5	0.6	7.4	22.9	5.0	11.7	3.6	0.8

※不明を除いて集計

働き方改善調査研究事業 報告書

<全体結果>

回答事業所全体の離職者は11,309人で、回答事業所の総従業員数(100,467人)に占める離職者割合(離職率)は11.3%となっている。

<業種別の結果>

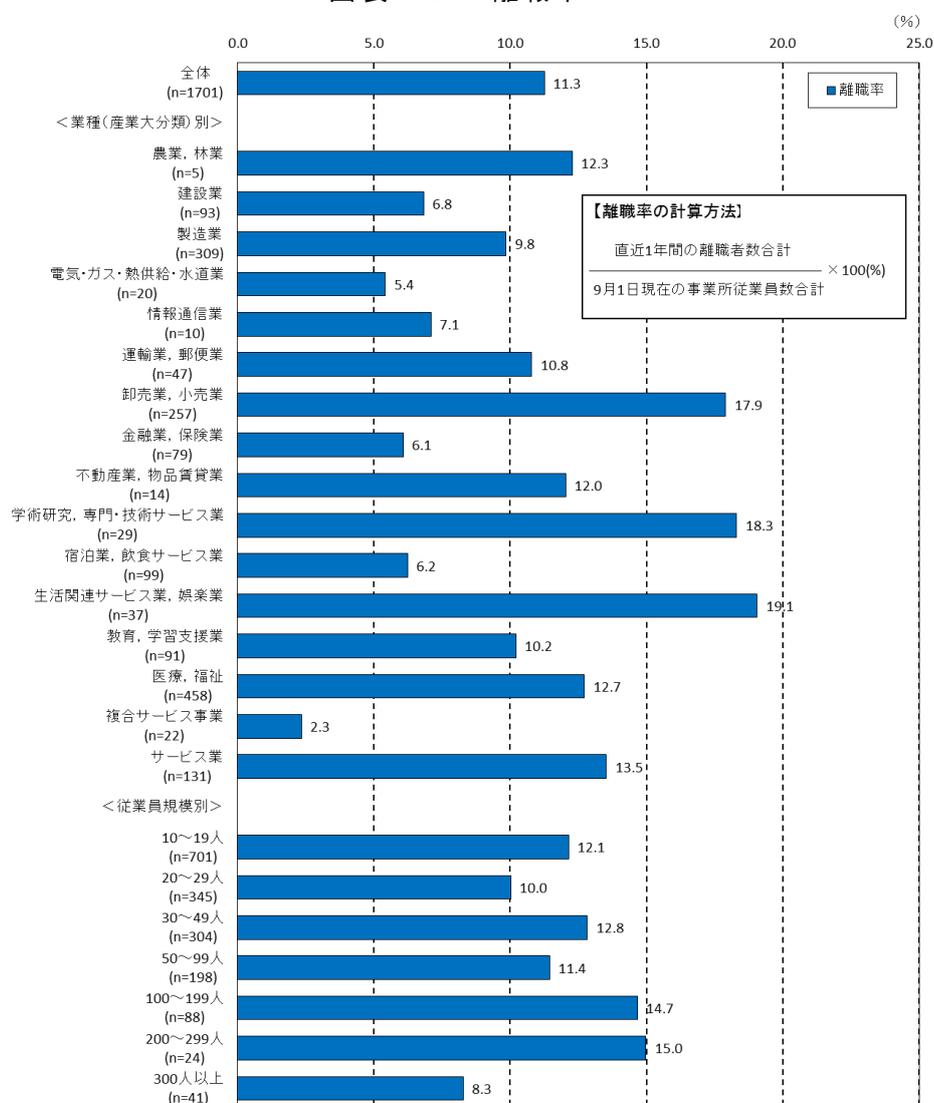
離職率の高い業種は、「生活関連等」(19.1%)、「学術研究等」(18.3%)、「卸・小売業」(17.9%)などとなっている。

一方、離職率の低い業種は、「複合サービス業」(2.3%)、「電気・ガス等」(5.4%)、「金融・保険業」(6.1%)、「宿泊・飲食」(6.2%)、「情報通信業」(7.1%)などとなっている。

<従業員規模別の結果>

従業員数100~299人の事業所で離職率がやや高くなっており、300人以上の事業所では10%を下回っている。

図表19 離職率



○参考値(全国調査等の結果)

【平成26年雇用動向調査】

・平成26年1月1日現在の常用労働者数に占める離職者数(離職率)は15.5%である。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。(p3参照)

働き方改善調査研究事業 報告書

(5) 離職理由

<全体結果>

離職の理由は、「家庭の事情」が 50.3%で最多、次に「定年・雇用契約の満了」が 25.7%、「他によい仕事があるから」が 24.0%、「体調不良」が 23.8%、「自分に向かない仕事だった」が 22.8%となっている。

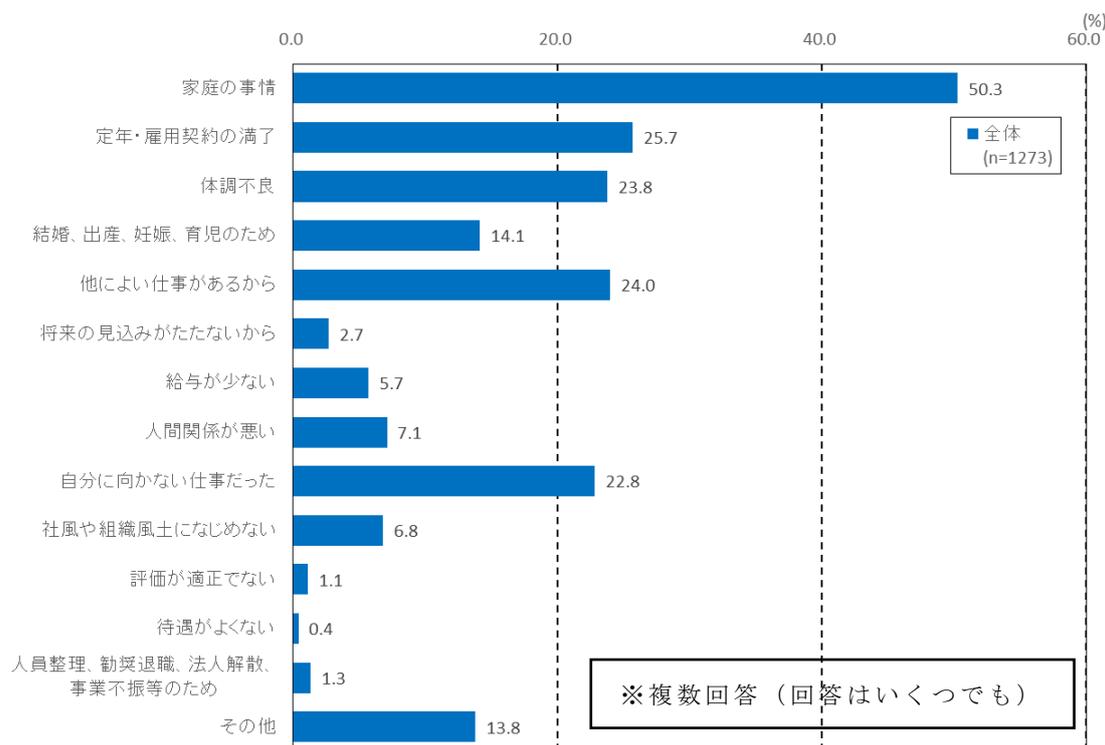
<業種別の結果>

「家庭の事情」の割合が高い業種は「宿泊・飲食」(64.0%)や「卸・小売業」(58.2%)、「医療、福祉」(59.5%)、「生活関連等」(56.3%)などである。「体調不良」の割合が高い業種は「サービス業」(38.5%)や「医療、福祉」(30.9%)である。「将来の見込みがたたないから」の割合が高い業種は「情報通信業」(14.3%)や「不動産業等」(9.1%)である。「結婚、出産、妊娠、育児のため」の割合が高い業種は「金融・保険業」(23.9%)や「医療、福祉」(22.0%)、「教育、学習支援業」(20.3%)である。

<従業員規模別の結果>

「家庭の事情」や「定年・雇用契約の満了」の割合は従業員規模が大きいほど高くなっている。「体調不良」の割合は従業員数 30~99 人や 300 人以上の事業所で高く、小規模事業所に比べても高くなっている。

図表 20 離職理由 (問 8-2)



働き方改善調査研究事業 報告書

図表 2 1 業種別、従業員規模別の離職理由（問 8 - 2）

		n	家庭の事情	満了・雇用契約の	体調不良	結婚、出産、妊娠、育児のため	他によい仕事があるから	将来の見込みがたないから	給与が少ない	人間関係が悪い	事だつた	自分に向かない仕事だつた	社風や組織風土になじめない	評価が適正でない	待遇がよくない	業不振等のため	人員整理、勧奨退職、法人解散、事業不振等のため	その他
全体		1273	50.3	25.7	23.8	14.1	24.0	2.7	5.7	7.1	22.8	6.8	1.1	0.4	1.3	13.8		
業種（産業大分類）別	農業、林業	4	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
	建設業	63	34.9	33.3	12.7	7.9	22.2	1.6	9.5	9.5	22.2	11.1	1.6	0.0	0.0	3.2	9.5	
	製造業	225	47.1	30.7	25.3	7.6	21.8	2.7	7.1	10.2	29.3	8.9	1.8	0.0	0.0	2.7	8.4	
	電気・ガス・熱供給・水道業	16	31.3	43.8	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	
	情報通信業	7	28.6	42.9	0.0	14.3	42.9	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	
	運輸業、郵便業	36	41.7	36.1	27.8	5.6	25.0	0.0	8.3	8.3	30.6	2.8	2.8	0.0	0.0	2.6	8.3	
	卸売業、小売業	189	58.2	16.9	22.2	10.6	21.2	4.8	5.3	4.2	27.5	6.3	2.1	0.0	0.0	2.6	23.8	
	金融業、保険業	46	37.0	19.6	19.6	23.9	21.7	4.3	2.2	2.2	21.7	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	
	不動産業、物品賃貸業	11	27.3	18.2	18.2	18.2	45.5	9.1	9.1	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	
	学術研究、専門・技術サービス業	22	40.9	31.8	13.6	9.1	31.8	0.0	0.0	4.5	22.7	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	
	宿泊業、飲食サービス業	89	64.0	7.9	9.0	11.2	36.0	1.1	2.2	2.2	28.1	9.0	0.0	2.2	0.0	0.0	36.0	
	生活関連サービス業、娯楽業	32	56.3	21.9	28.1	15.6	28.1	6.3	9.4	9.4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	15.6	
	教育、学習支援業	69	33.3	50.7	7.2	20.3	18.8	1.4	1.4	1.4	4.3	2.9	0.0	0.0	0.0	2.9	23.2	
	医療、福祉	363	59.5	21.8	30.9	22.0	24.8	2.2	6.1	8.3	20.4	8.0	0.6	0.3	0.0	0.0	8.3	
	複合サービス事業	5	0.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	
サービス業	96	37.5	35.4	38.5	9.4	21.9	1.0	5.2	9.4	18.8	5.2	2.1	0.0	1.0	1.0	11.5		
従業員規模別	10～19人	431	43.4	15.8	18.1	9.5	20.0	3.2	5.1	4.9	17.6	6.0	1.6	0.0	1.4	15.1		
	20～29人	241	45.2	18.3	21.2	14.5	19.1	1.7	3.7	6.6	18.3	7.1	0.8	0.8	2.1	14.9		
	30～49人	252	56.0	24.2	29.0	14.7	26.6	2.8	6.3	7.1	21.8	4.0	0.4	0.4	0.4	14.7		
	50～99人	182	53.8	34.1	29.1	13.2	30.2	0.5	6.6	10.4	36.3	11.0	1.1	1.1	1.6	9.9		
	100～199人	84	65.5	51.2	28.6	25.0	28.6	6.0	7.1	11.9	33.3	11.9	2.4	0.0	2.4	7.1		
	200～299人	23	69.6	65.2	21.7	17.4	30.4	8.7	17.4	13.0	26.1	4.3	0.0	0.0	0.0	13.0		
	300人以上	41	58.5	75.6	31.7	24.4	36.6	2.4	2.4	4.9	26.8	4.9	0.0	0.0	0.0	14.6		

■ 全体結果よりも5ポイント以上高い
 ■ 全体結果よりも5ポイント以上低い

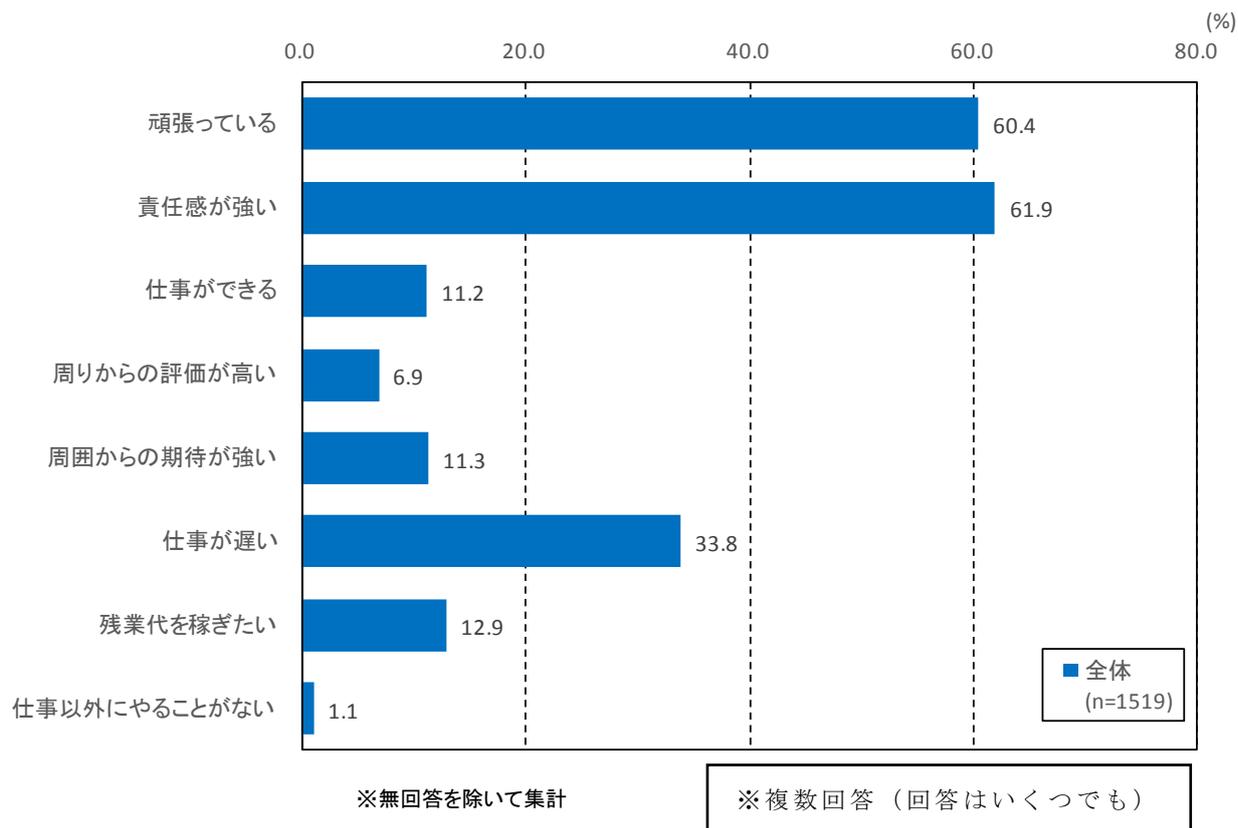
4. 労務管理

(1) 労働時間が長い従業員に対する評価

<全体結果>

労働時間が長い従業員に対する事業所の評価は、「責任感が強い」(61.9%)や「頑張っている」(60.4%)など、肯定的な評価が多くみられる反面、「仕事が遅い」(33.8%)や「残業代を稼ぎたい」(12.9%)などの否定的な評価も半数近くを占めている。

図表 2 2 労働時間が長い従業員に対する評価 (問 1 4)



働き方改善調査研究事業 報告書

<業種別の結果>

「製造業」や「サービス業」、平成27年9月の残業時間で30時間以上の割合が高かった「建設業」では約70%が「頑張っている」と肯定的に評価している。同じく残業時間が30時間以上の割合が高かった「運輸・郵便業」では「仕事ができる」(20.4%)、「周りからの評価が高い」「周囲からの期待が強い」(16.3%)など、従業員側からみた肯定的な評価も高くなっている。一方、残業時間が「0時間」の割合が高かった「生活関連等」では「残業代を稼ぎたい」(25.0%)となっており、平時から残業が少ない職場であることが、労働時間が長い従業員に対して否定的な評価につながっていると考えられる。

<従業員規模別の結果>

従業員数が100人以上の事業所で「周囲からの期待が強い」や「残業代を稼ぎたい」など相反する評価が高く、300人以上の事業所では45.7%が「仕事が遅い」と評価しており、従業員規模が大きいほど否定的な評価が高くなっている。

図表2-3 業種別、従業員規模別の労働時間が長い従業員に対する評価（問14）

		n	頑張っている	責任感が強い	仕事ができる	評価が高いからの評価	周囲からの期待が強い	仕事が遅い	残業代を稼ぎたい	仕事と外にやるべきことがない
全体		1519	60.4	61.9	11.2	6.9	11.3	33.8	12.9	1.1
業種 (産業大分類) 別	農業、林業	4	75.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	建設業	87	69.0	63.2	12.6	8.0	9.2	20.7	10.3	1.1
	製造業	280	67.9	61.4	9.6	5.0	10.7	23.2	21.8	1.8
	電気・ガス・熱供給・水道業	9	44.4	22.2	11.1	11.1	11.1	33.3	22.2	0.0
	情報通信業	8	62.5	62.5	37.5	0.0	25.0	50.0	12.5	0.0
	運輸業、郵便業	49	57.1	44.9	20.4	16.3	16.3	28.6	22.4	0.0
	卸売業、小売業	227	55.5	55.9	9.3	5.3	7.0	42.7	10.6	2.2
	金融業、保険業	71	47.9	53.5	2.8	2.8	22.5	63.4	4.2	0.0
	不動産業、物品賃貸業	14	50.0	50.0	14.3	0.0	0.0	35.7	14.3	0.0
	学術研究、専門・技術サービス業	27	59.3	59.3	11.1	11.1	7.4	37.0	7.4	0.0
	宿泊業、飲食サービス業	93	63.4	66.7	12.9	5.4	6.5	29.0	12.9	0.0
	生活関連サービス業、娯楽業	32	62.5	53.1	3.1	3.1	6.3	31.3	25.0	3.1
	教育、学習支援業	78	41.0	62.8	17.9	12.8	16.7	34.6	3.8	0.0
	医療、福祉	410	60.5	69.8	10.7	8.0	12.9	33.4	9.3	0.7
	複合サービス事業	21	47.6	52.4	14.3	4.8	9.5	52.4	9.5	0.0
	サービス業	109	68.8	63.3	14.7	7.3	11.9	37.6	16.5	0.9
従業員規模別	10～19人	596	61.2	59.4	12.8	8.2	10.7	32.9	10.6	0.5
	20～29人	312	59.0	64.1	11.5	9.3	10.3	34.3	10.3	1.6
	30～49人	279	60.6	63.8	9.0	4.7	10.0	30.8	15.1	1.4
	50～99人	184	61.4	66.8	8.7	3.3	10.9	38.0	13.6	0.5
	100～199人	71	56.3	62.0	12.7	5.6	16.9	35.2	26.8	2.8
	200～299人	22	50.0	50.0	4.5	9.1	22.7	36.4	27.3	0.0
	300人以上	35	62.9	62.9	11.4	2.9	28.6	45.7	22.9	2.9

■ 全体結果よりも5ポイント以上高い
 ■ 全体結果よりも5ポイント以上低い

※無回答を除いて集計

働き方改善調査研究事業 報告書

(2) 人事評価方法・内容

<残業や休日出勤をほとんどせず、時間内に仕事を終えて帰宅すること：全体結果>

人事評価において「残業や休日出勤をほとんどせず、時間内に仕事を終えて帰宅すること」に対して「プラスに評価されている」事業所は 29.7%、「マイナスに評価されている」事業所は 3.5%と、プラスに評価している事業所の方が多い。ただし、「考慮されていない」事業所も 60.3%である。

<業種別の結果>

プラスに評価している事業所割合が高い業種は、「不動産業等」(53.3%)、「複合サービス業」(50.0%)、「金融・保険業」(46.8%)、「運輸・郵便業」(44.9%)、「宿泊・飲食」(42.2%) などである。

<従業員規模別の結果>

従業員規模が大きい事業所ほど「プラスに評価されている」割合が低く、従業員数「100~199人」の事業所では 22.7%にとどまっている。

<自分に与えられた役割を果たし、付与された有給休暇のほとんどを消化すること：全体結果>

「自分に与えられた役割を果たし、付与された有給休暇のほとんどを消化すること」に対して、「プラスに評価されている」事業所は 14.5%、「マイナスに評価されている」事業所は 4.1%と、プラスに評価している事業所の方が多い。ただし、「考慮されていない」事業所も 74.7%と、人事評価方法・内容の3つの中で「考慮されていない」事業所の割合が最も高い。

<業種別の結果>

プラスに評価している事業所割合が高い業種は、「金融・保険業」(30.4%)、「運輸・郵便業」(28.6%)、「複合サービス業」(22.7%) などである。

<従業員規模別の結果>

従業員数 300人以上の事業所を除き、従業員規模が大きい事業所ほど「プラスに評価されている」割合が低く、従業員数 200~299人の事業所では 4.2%となっている。

<自己啓発に熱心に取り組み、その時間確保のために与えられた仕事を早く終わらせること：全体結果>

「自己啓発に熱心に取り組み、その時間確保のために与えられた仕事を早く終わらせること」に対して、「プラスに評価されている」事業所は 49.3%、「マイナスに評価されている」事業所は 1.1%と、プラスに評価している事業所の方が多く、人事評価方法・内容の3つの中で「プラスに評価されている」事業所割合は最も高い。「考慮されていない」事業所は 43.3%で、3つの中では最も低い。

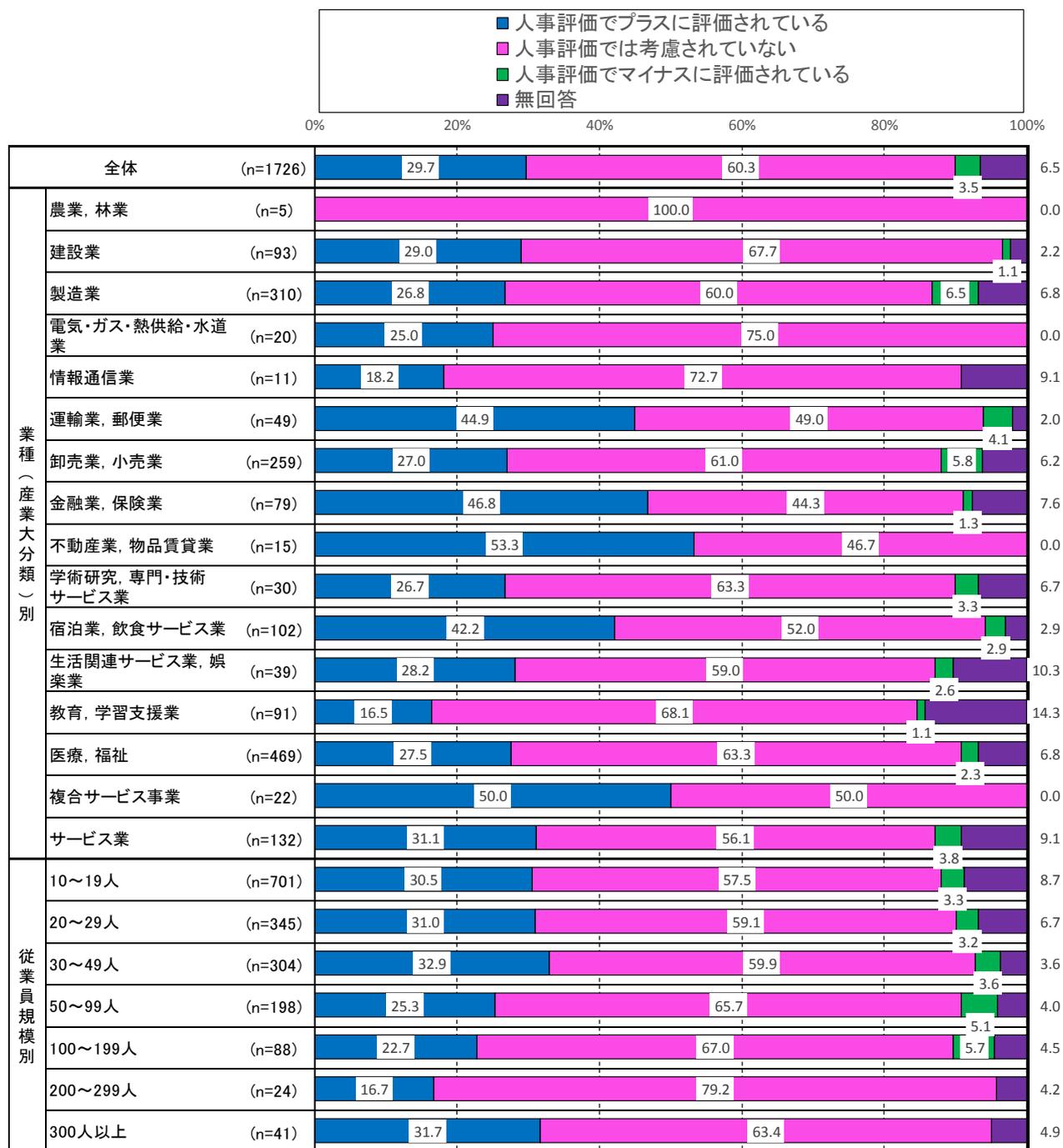
<業種別の結果>

プラスに評価している事業所割合が高い業種は、「学術研究等」(80.0%)、「複合サービス業」(72.7%)、「不動産業等」(66.7%)、「運輸・郵便業」(63.3%) などである。

<従業員規模別の結果>

従業員規模が大きい事業所ほど「プラスに評価されている」割合が低く、従業員数 300人以上の事業所では 31.7%にとどまっている。

図表 2 4 「時間内に仕事を終えて帰宅する」に対する評価（問 1 5）



○参考値 (全国調査等の結果)

【企業のワーク・ライフ・バランスに関する調査】

- ・「残業や休日出勤をほとんどせず、時間内に仕事を終えて帰宅すること」に対して「プラスに評価されている」(16.3%)、「マイナスに評価されている」(6.2%)

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。(P15 参照)

働き方改善調査研究事業 報告書

図表 2 5 「役割を果たし有給休暇を消化する」に対する評価（問 1 5）



○参考値（全国調査等の結果）

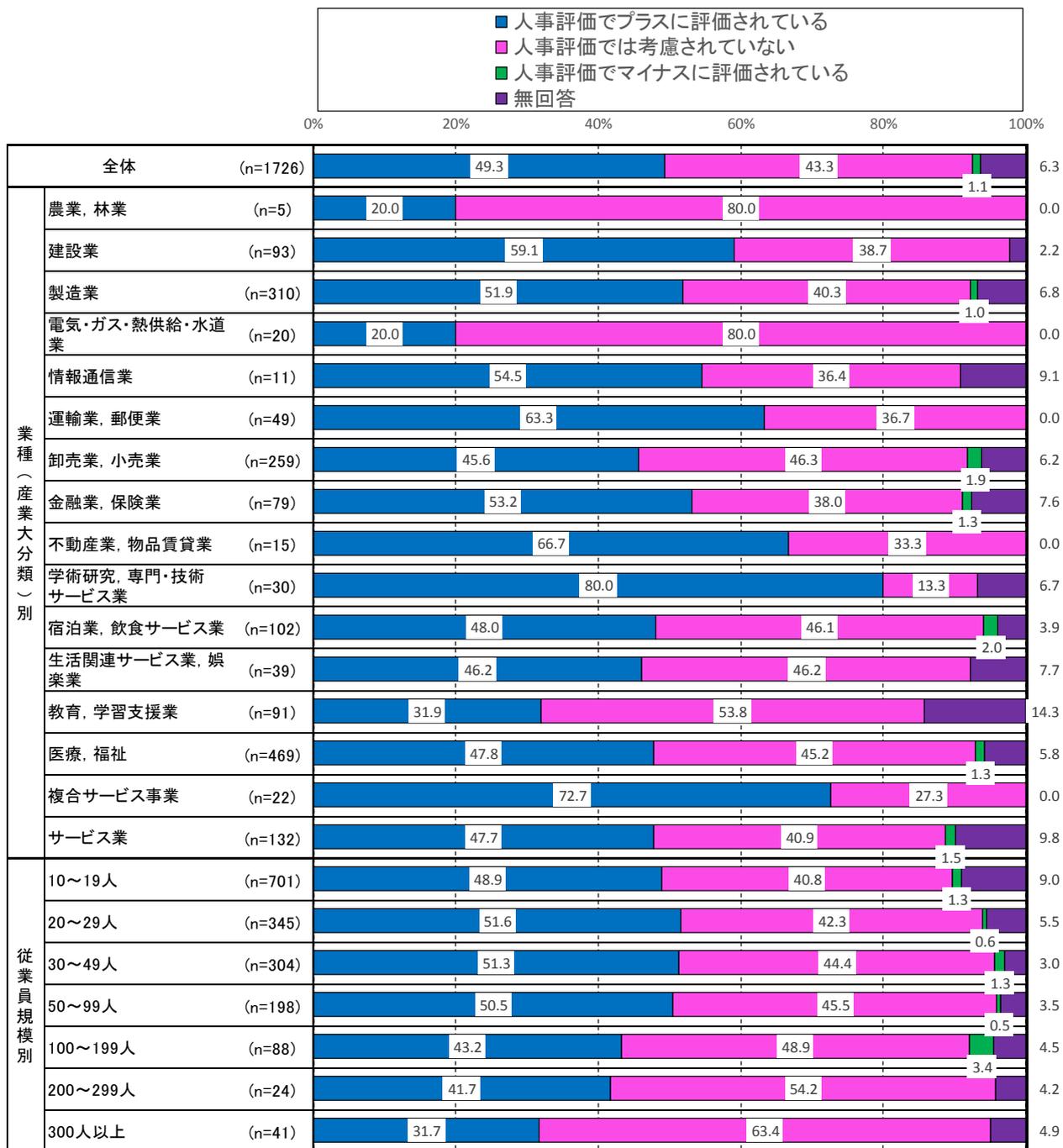
【企業のワーク・ライフ・バランスに関する調査】

・「自分に与えられた役割を果たし、付与された有給休暇のほとんどを消化すること」に対して「プラスに評価されている」（4.9%）、「マイナスに評価されている」（7.2%）

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。（P15 参照）

働き方改善調査研究事業 報告書

図表 2 6 「自己啓発に取り組み、仕事を早く終わらせる」に対する評価（問 1 5）



○参考値 (全国調査等の結果)

【企業のワーク・ライフ・バランスに関する調査】

・「自己啓発に熱心に取り組み、その時間確保のために仕事を早く終わらせること」に対して、「プラスに評価されている」(35.4%)、「マイナスに評価されている」(1.7%)

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。(P15 参照)

働き方改善調査研究事業 報告書

(3) 従業員に対する人事評価方法の周知状況

<全体結果>

従業員に対する人事評価方法の周知状況は、何らかの方法で周知している事業所は52.2%で中でも「正社員全員に周知している」事業所の割合が20.5%である。一方、「特に周知していない」事業所の割合も40.8%である。WLB調査では、何らかの方法で周知している事業所は61.7%、「特に周知していない」事業所が35.7%と、これらと比較すると何らかの方法で周知している事業所の割合は低くなっている。特に「人事評価を行う管理職に周知している」事業所の割合は24.1%と、これに比べると非常に低くなっている。

<業種別の結果>

何らかの方法で周知している事業所割合が高い業種は、「複合サービス業」(68.1%)、「運輸・郵便業」(67.3%)、「金融・保険業」(67.1%)、「不動産業等」(60.0%)などで、特に「複合サービス業」と「金融・保険業」では、「正社員全員に周知している」事業所の割合が半数からそれ以上を占めている。一方、「特に周知していない」事業所割合が高い業種は、「電気・ガス等」(65.0%)、「生活関連等」(53.8%)などである。

<従業員規模別の結果>

従業員数199人までの事業所では、従業員規模が大きいほど何らかの方法で周知している事業所割合は高く反面、従業員数200~299人の事業所では70%以上が「特に周知していない」としている。

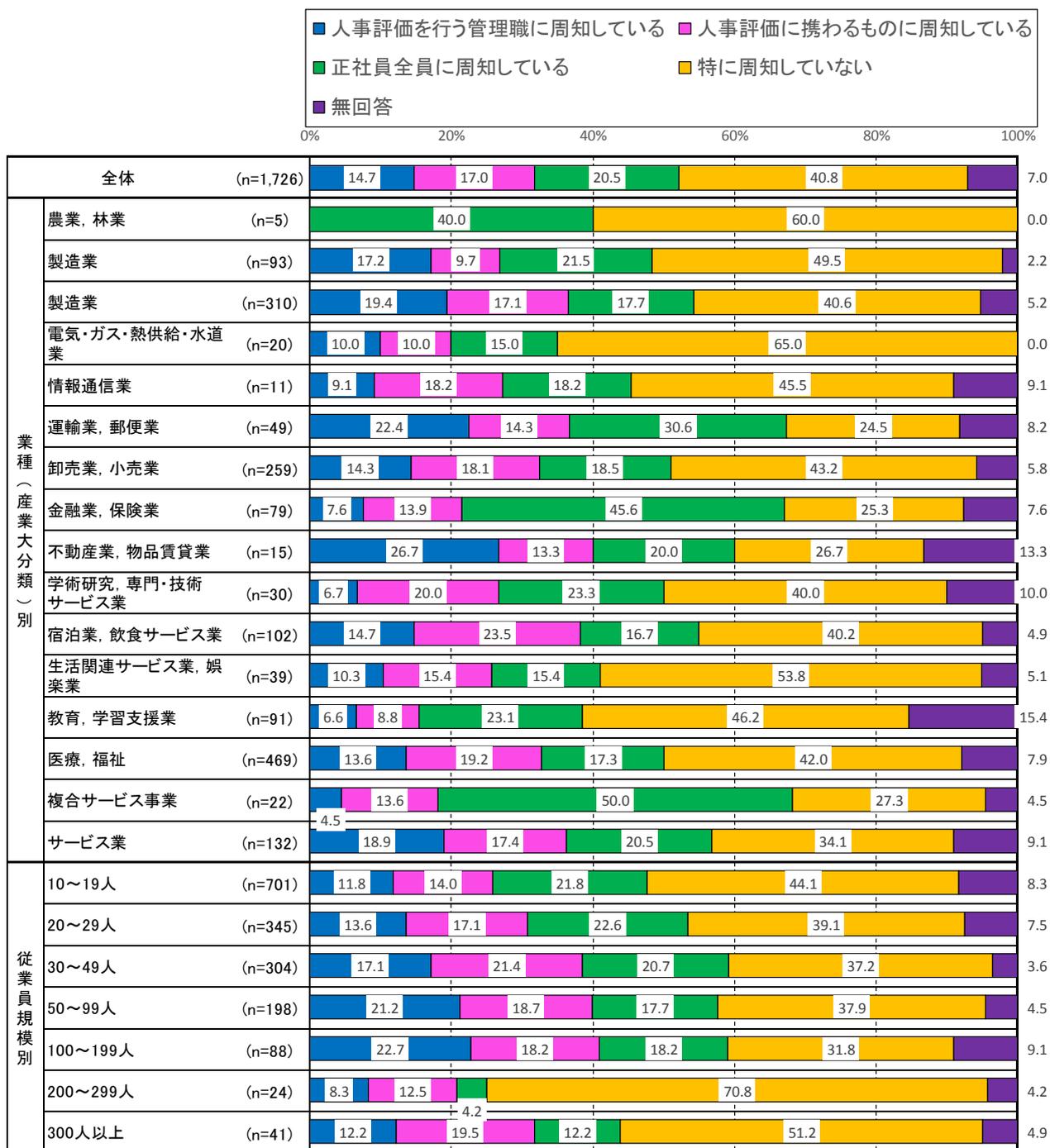
○参考値（全国調査等の結果）

【企業のワーク・ライフ・バランスに関する調査】

- ・何らかの方法で周知している事業所は61.7%、「特に周知していない」事業所が35.7%である。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。(P15参照)

図表 2 7 従業員に対する人事評価方法の周知状況（問 1 6）



働き方改善調査研究事業 報告書

(4) ワーク・ライフ・バランス推進担当部署の設置状況

＜全体結果＞

ワーク・ライフ・バランス推進担当部署の設置状況は、「担当は置いていない」が71.4%と圧倒的に多い。次に「人事系部署の担当者が兼務で取り組んでいる」が11.8%である。

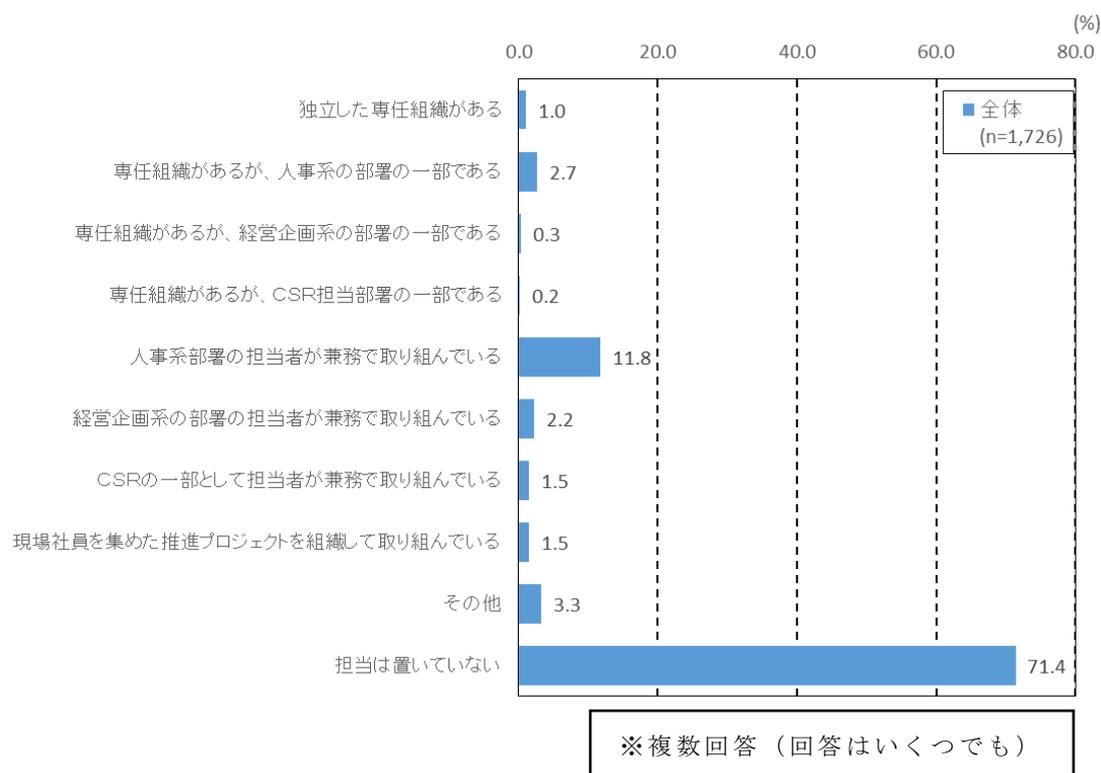
＜業種別の結果＞

「担当は置いていない」事業所割合が高い業種は、「学術研究等」（83.3%）、「生活関連等」（76.9%）、「宿泊・飲食」（76.5%）などである。一方、「金融・保険業」では「独立した専任組織がある」事業所が7.6%、「情報通信業」「運輸・郵便業」「金融・保険業」「宿泊・飲食」では「専任組織があるが、人事系の部署の一部である」事業所も10%程度からそれ以上を占めている。「卸・小売業」や「不動産業等」では「人事系部署の担当者が兼務で取り組んでいる」事業所が20%以上を占めている。

＜従業員規模別の結果＞

「人事系部署の担当者が兼務で取り組んでいる」割合は従業員規模が大きいほど高く、従業員数300人以上の事業所では半数以上を占めている。

図表28 ワーク・ライフ・バランス推進担当部署の設置状況（問17）



○参考値（全国調査等の結果）

【企業のワーク・ライフ・バランスに関する調査】

- ・ワーク・ライフ・バランス推進担当部署の設置状況
 - 担当は置いていない（63.0%）
 - 人事系部署の担当者が兼務で取り組んでいる（29.6%）

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。（P15 参照）

図表29 業種別、従業員規模別の
ワーク・ライフ・バランス推進担当部署の設置状況（問17）

業種 (産業大分類) 別	n	独立した専任組織がある	専任組織の部署があるが、人事系の部署の一部である	専任組織の部署があるが、経営企画系の一部である	専任組織の部署があるが、CSR担当部署の一部である	人事系部署の担当者が兼務で取り組んでいる	経営企画系の部署の担当者が兼務で取り組んでいる	CSRの一部として担当者が兼務で取り組んでいる	現場社員を集めた推進プロジェクトを組織して取り組んでいる	その他	担当は置いていない
全体	1726	1.0	2.7	0.3	0.2	11.8	2.2	1.5	1.5	3.3	71.4
農業、林業	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	60.0
建設業	93	1.1	3.2	1.1	0.0	8.6	5.4	2.2	3.2	1.1	72.0
製造業	310	0.6	1.3	0.0	0.3	12.3	2.6	1.3	0.3	2.3	75.5
電気・ガス・熱供給・水道業	20	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	5.0	0.0	0.0	50.0	35.0
情報通信業	11	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	63.6
運輸業、郵便業	49	0.0	8.2	0.0	0.0	10.2	2.0	2.0	0.0	2.0	69.4
卸売業、小売業	259	1.5	1.2	0.0	0.4	20.1	2.3	1.5	2.7	0.8	66.0
金融業、保険業	79	7.6	12.7	0.0	0.0	10.1	0.0	7.6	1.3	20.3	35.4
不動産業、物品賃貸業	15	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	6.7	0.0	0.0	60.0
学術研究、専門・技術サービス業	30	3.3	3.3	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3
宿泊業、飲食サービス業	102	0.0	7.8	0.0	0.0	3.9	2.9	2.0	2.0	1.0	76.5
生活関連サービス業、娯楽業	39	0.0	0.0	0.0	0.0	10.3	0.0	2.6	0.0	7.7	76.9
教育、学習支援業	91	0.0	0.0	2.2	0.0	8.8	6.6	0.0	1.1	5.5	74.7
医療、福祉	469	0.0	1.5	0.2	0.2	10.9	1.1	0.9	1.9	1.7	75.5
複合サービス事業	22	0.0	4.5	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	4.5	81.8
サービス業	132	2.3	2.3	0.8	0.0	10.6	2.3	0.8	0.0	1.5	75.0
従業員規模別											
10～19人	701	1.6	2.1	0.3	0.1	7.8	1.9	1.3	1.0	4.4	74.0
20～29人	345	0.6	4.6	0.0	0.3	11.0	2.0	0.6	1.2	3.2	71.3
30～49人	304	0.3	3.0	0.7	0.3	8.9	1.3	3.0	2.6	2.0	74.7
50～99人	198	1.0	1.5	0.0	0.0	14.1	4.5	2.5	1.0	2.0	72.2
100～199人	88	0.0	3.4	1.1	0.0	26.1	4.5	1.1	2.3	1.1	58.0
200～299人	24	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0	4.2	4.2	54.2
300人以上	41	2.4	0.0	0.0	0.0	51.2	2.4	0.0	2.4	7.3	34.1

全体結果よりも5ポイント以上高い
全体結果よりも5ポイント以上低い

働き方改善調査研究事業 報告書

(5) 管理職のマネジメント業務時間を確保する取組

＜全体結果＞

管理職のマネジメント業務時間を確保する取組では、「特に取り組みを行っていない」が 38.2%、取組を行っている中では、「管理職の意識改善（マネジメント研修等の実施）」（27.8%）、「効率性を高めるためのノウハウの共有」（25.7%）、「管理職自身の負担の軽減」（25.6%）などが中心である。

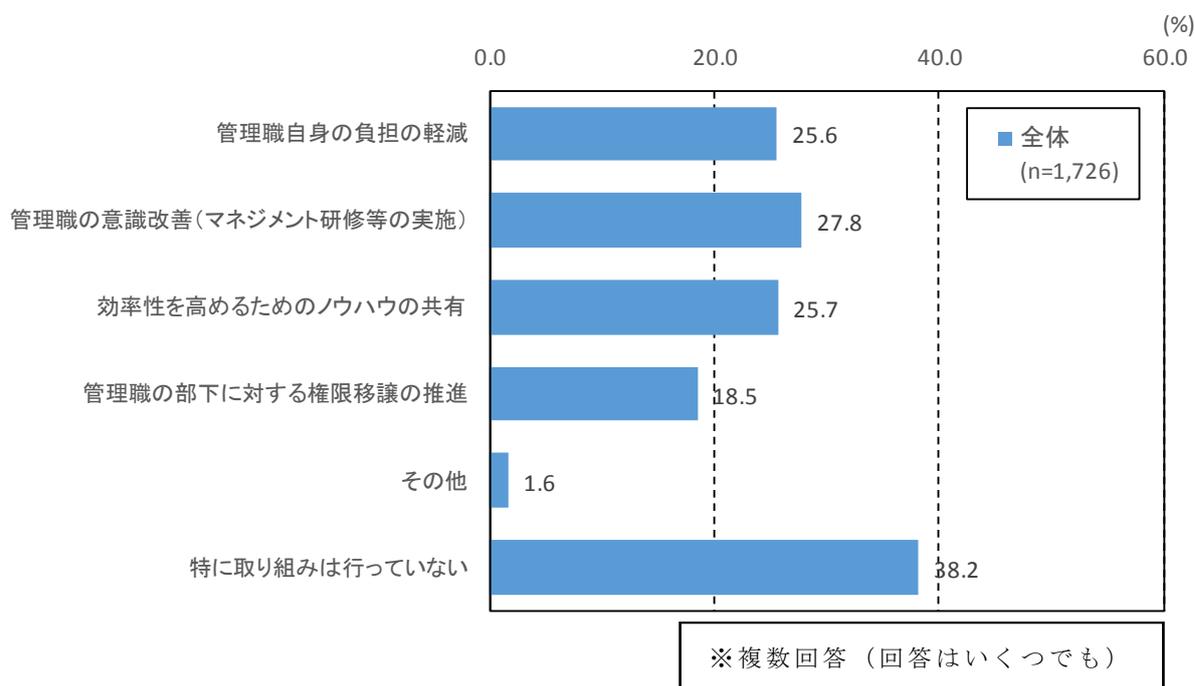
＜業種別の結果＞

「特に取組を行っていない」事業所割合が高い業種は、「学術研究等」（53.3%）、「教育、学習支援業」（51.6%）などで、いずれも半数以上を占めている。一方、「管理職の意識改善（マネジメント研修等の実施）」を行っている事業所割合が高い業種は、「電気・ガス等」（70.0%）、「金融・保険業」（55.7%）、「複合サービス業」（45.5%）、「不動産業等」（40.0%）などである。「管理職自身の負担の軽減」を行っている事業所割合が高い業種は、「電気・ガス等」（55.0%）、「情報通信業」（36.4%）などである。

＜従業員規模別の結果＞

従業員数 50 人以上の事業所で「管理職の意識改善（マネジメント研修等の実施）」を行っている事業所割合が高く、特に従業員数 200 人以上の事業所では約半数の事業所が実施している。

図表 3 0 管理職のマネジメント業務時間を確保する取組（問 1 8）



○参考値（全国調査等の結果）

【企業のワーク・ライフ・バランスに関する調査】

- ・ 管理職のマネジメント業務時間を確保する取組
 - 管理職の意識改善（37.9%）
 - 特に取り組みは行っていない（36.1%）
 - 効率性を高めるためのノウハウ共有（21.3%）
 - 管理職自身の負担軽減（19.9%）
 - 管理職の部下に対する権限委譲の推進（19.7%）

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。（P15 参照）

働き方改善調査研究事業 報告書

図表 3 1 管理職のマネジメント業務時間を確保する取組（問 1 8）

		n	の管理職自身の負担軽減	修（管理職の意識ト改善） 等マネジメント研	有め効 率ノ性 ウを高 めウの 共た	進す 管理職 の権限 の部下 の推対	その他	行特 つに 取り 組み は
全体		1726	25.6	27.8	25.7	18.5	1.6	38.2
業種 （産業大分類） 別	農業、林業	5	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	60.0
	建設業	93	17.2	20.4	19.4	17.2	4.3	41.9
	製造業	310	19.0	22.3	25.2	18.4	2.6	43.9
	電気・ガス・熱供給・水道業	20	55.0	70.0	65.0	10.0	0.0	15.0
	情報通信業	11	36.4	9.1	45.5	18.2	0.0	9.1
	運輸業、郵便業	49	32.7	28.6	28.6	24.5	4.1	30.6
	卸売業、小売業	259	23.6	30.1	23.2	20.1	0.4	35.9
	金融業、保険業	79	29.1	55.7	39.2	22.8	0.0	12.7
	不動産業、物品賃貸業	15	20.0	40.0	26.7	20.0	0.0	33.3
	学術研究、専門・技術サービス業	30	6.7	16.7	20.0	13.3	3.3	53.3
	宿泊業、飲食サービス業	102	29.4	30.4	21.6	26.5	1.0	43.1
	生活関連サービス業、娯楽業	39	33.3	28.2	25.6	12.8	2.6	46.2
	教育、学習支援業	91	23.1	16.5	22.0	9.9	0.0	51.6
	医療、福祉	469	33.3	28.4	25.4	20.7	1.7	33.9
	複合サービス事業	22	13.6	45.5	36.4	9.1	4.5	40.9
サービス業	132	17.4	22.0	26.5	9.8	0.8	47.0	
従業員規模別	10～19人	701	23.3	22.8	24.4	13.6	1.0	42.4
	20～29人	345	21.4	26.1	25.2	22.9	2.0	39.7
	30～49人	304	29.3	30.3	27.0	24.3	1.0	33.2
	50～99人	198	32.3	34.8	27.8	19.7	3.5	34.3
	100～199人	88	26.1	37.5	33.0	22.7	0.0	25.0
	200～299人	24	37.5	45.8	16.7	16.7	4.2	33.3
	300人以上	41	26.8	46.3	24.4	9.8	4.9	43.9

全体結果よりも5ポイント以上高い
全体結果よりも5ポイント以上低い

※複数回答（回答はいくつでも）

働き方改善調査研究事業 報告書

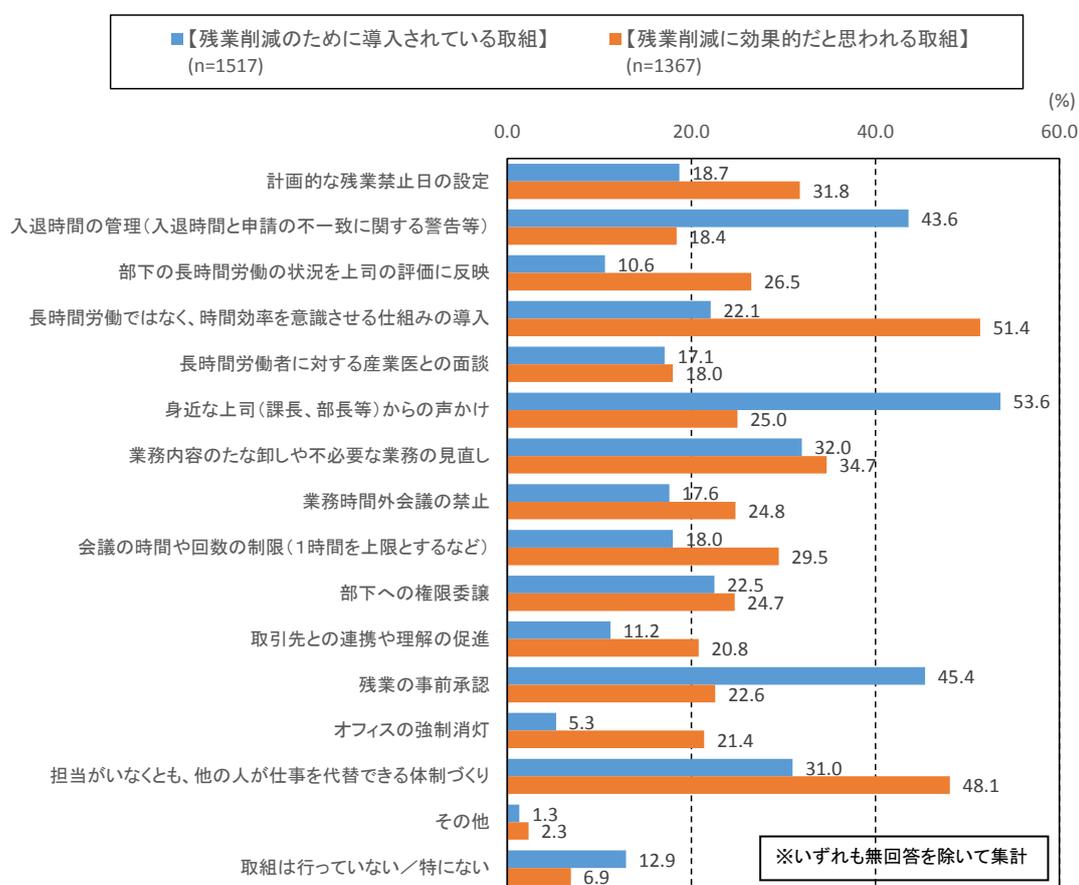
(6) 残業削減のために導入されている取組と効果的だと思われる取組

<全体結果>

残業削減のために導入されている取組は、「身近な上司（課長、部長等）からの声かけ」（53.6%）、「残業の事前承認」（45.4%）、「入退時間の管理（入退時間と申請の不一致に関する警告等）」（43.6%）などを実施している事業所が多い。

残業削減のために効果的だと思われる取組（導入されていなくても効果が出ると考えられる取組を含む）は、導入されている取組みの上位よりも「長時間労働ではなく、時間効率を意識させる仕組みの導入」（51.4%）、「担当がいなくとも、他の人が仕事を代替できる体制づくり」（48.1%）、「業務内容のたな卸しや不必要な業務の見直し」（34.7%）など、効率性、生産性を重視した取組を効果的とする事業所が多い。

図表 3 2 残業削減のために導入している取組と効果があった取組（問 1 9）



※複数回答（回答はいくつでも）

○参考値（全国調査等の結果）

【企業のワーク・ライフ・バランスに関する調査】

- ・ 残業削減のために導入されている取組の上位
 - 身近な上司（課長、部長等）からの声かけ（51.8%）
 - 残業の事前承認（41.9%）
 - 長時間労働者に対する産業医との面談（27.4%）
- ・ 残業削減のために効果的だと思われる取組の上位
 - 時間効率を意識させる仕組みの導入（44.3%）
 - 担当がいなくとも、他の人が仕事を代替できる体制づくり（44.1%）
 - 残業の事前承認（25.2%）

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。（P15 参照）

働き方改善調査研究事業 報告書

【導入されている取組】

＜業種別の結果＞

全体で最も導入率が高かった「身近な上司（課長、部長等）からの声かけ」は、「電気・ガス」（89.5%）、「金融・保険業」（82.7%）、「複合サービス業」（68.2%）で導入率が高くなっている反面、「学術研究等」（40.7%）、「生活関連等」（44.1%）、「宿泊・飲食」（46.7%）、「教育、学習支援業」（46.9%）「製造業」（47.6%）などでは導入率は低くなっている。

効果的な取組で回答率が高かった「長時間労働ではなく、時間効率を意識させる仕組みの導入」は「運輸・郵便業」（31.7%）、「担当がいなくとも、他の人が仕事を代替できる体制づくり」は「宿泊・飲食」（41.3%）、「業務内容のたな卸しや不必要な業務の見直し」は「不動産業等」（53.3%）、「運輸・郵便業」（46.3%）、「電気・ガス等」（42.1%）などは、すでに導入している事業所が多くなっている。

「計画的な残業禁止日の設定」や「入退時間の管理」、「部下の長時間労働の状況を上司の評価に反映」といった労務管理系の取組を導入している事業所割合が高い業種は、「金融・保険業」や「不動産業等」である。

＜従業員規模別の結果＞

従業員規模別にみると、従業員規模が大きい事業所ほど各種取組を導入している割合は高く、従業員数 200 人以上の事業所では 60～70%の事業所で「残業の事前承認」を導入している反面、「部下の長時間労働の状況を上司の評価に反映」、「長時間労働ではなく、時間効率を意識させる仕組みの導入」、「部下への権限委譲」、「取引先との連携や理解の促進」などを導入している事業所は少ない。

導入されている取組と離職率の因果関係について重回帰分析を行ったが、離職率に有意に影響する結果は得られなかった。

図表 3 3 業種別、従業員規模別の残業削減のために導入されている取組（問 1 9）

業種（産業大分類）別	従業員規模別	n	計画的な残業禁止日	入退時間の管理（一入致に時間と申請の不一致等）	部下の長時間労働の状況（上司の評価に反映）	長時間労働ではなく、時間効率を意識させる仕組みの導入	長時間労働者に対する産業医との面談	身近な上司（課長、部長等）からの声かけ	業務内容のたな卸しや不必要な業務の見直し	業務時間外会議の禁止	会議の時間や回数（1時間以上）とするなど	部下への権限委譲	取引先との連携や理解の促進	残業の事前承認	オフィスの強制消灯	他の人が仕事を代替できる体制づくり	担当がいなくとも、他の人が仕事を代替できる体制づくり	その他	取組は行っていない
			単位：%	18.7	43.6	10.6	22.1	17.1	53.6	32.0	17.6	18.0	22.5	11.2	45.4	5.3	31.0	1.3	12.9
全体		1517	18.7	43.6	10.6	22.1	17.1	53.6	32.0	17.6	18.0	22.5	11.2	45.4	5.3	31.0	1.3	12.9	
業種（産業大分類）別	農業、林業	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	
	建設業	79	16.5	36.7	10.1	21.5	8.9	50.6	13.9	21.5	16.5	16.5	16.5	25.3	7.6	17.7	2.5	20.3	
	製造業	267	21.3	39.7	10.1	22.5	21.7	47.6	33.3	13.1	15.4	20.2	11.2	50.2	4.9	27.7	1.1	12.4	
	電気・ガス・熱供給・水道業	19	10.5	84.2	5.3	10.5	52.6	89.5	42.1	15.8	0.0	5.3	10.5	73.7	0.0	31.6	0.0	0.0	
	情報通信業	10	40.0	30.0	0.0	10.0	40.0	50.0	30.0	10.0	10.0	20.0	0.0	80.0	10.0	30.0	0.0	0.0	
	運輸業、郵便業	41	19.5	43.9	17.1	31.7	29.3	61.0	46.3	14.6	12.2	29.3	26.8	39.0	14.6	39.0	2.4	9.8	
	卸売業、小売業	221	22.2	56.1	11.8	28.1	17.6	54.3	38.9	22.6	12.2	26.7	13.6	49.3	8.6	35.7	0.9	10.9	
	金融業、保険業	75	54.7	58.7	22.7	29.3	37.3	82.7	34.7	22.7	18.7	34.7	9.3	65.3	4.0	37.3	0.0	2.7	
	不動産業、物品賃貸業	15	40.0	66.7	20.0	20.0	26.7	60.0	53.3	26.7	13.3	13.3	6.7	53.3	13.3	20.0	0.0	13.3	
	学術研究、専門・技術サービス業	27	25.9	40.7	11.1	22.2	7.4	40.7	29.6	18.5	11.1	22.2	14.8	40.7	0.0	22.2	0.0	25.9	
	宿泊業、飲食サービス業	92	14.1	52.2	10.9	23.9	32.6	46.7	38.0	17.4	14.1	32.6	8.7	27.2	6.5	41.3	1.1	14.1	
	生活関連サービス業、娯楽業	34	11.8	44.1	8.8	14.7	2.9	44.1	23.5	2.9	8.8	29.4	8.8	41.2	5.9	38.2	0.0	14.7	
	教育、学習支援業	81	16.0	23.5	2.5	12.3	7.4	46.9	30.9	25.9	13.6	8.6	9.9	29.6	1.2	22.2	7.4	18.5	
	医療、福祉	416	9.4	37.3	9.6	20.7	7.0	54.8	29.6	16.6	29.3	24.0	8.4	44.0	3.4	32.0	0.2	10.6	
	複合サービス事業	22	31.8	63.6	27.3	13.6	9.1	68.2	18.2	27.3	18.2	18.2	18.2	86.4	9.1	31.8	4.5	9.1	
	サービス業	115	18.3	42.6	7.0	20.0	23.5	50.4	27.8	13.9	12.2	13.9	11.3	47.8	4.3	27.0	1.7	22.6	
従業員規模別	10～19人	602	16.9	40.4	10.6	24.4	13.0	50.7	28.7	18.6	17.4	22.4	14.6	40.2	6.3	30.2	2.0	17.9	
	20～29人	304	19.4	44.4	12.8	21.1	17.1	53.3	29.3	15.8	18.1	22.7	12.2	44.1	3.9	31.3	1.0	9.5	
	30～49人	272	17.3	44.1	11.8	21.7	16.2	56.6	34.2	18.8	19.9	23.9	8.5	48.2	6.6	29.8	0.7	9.9	
	50～99人	179	20.7	46.4	9.5	22.9	19.6	55.3	38.5	14.5	14.5	23.9	6.7	48.6	2.2	30.2	1.1	8.9	
	100～199人	80	26.3	45.0	8.8	17.5	21.3	57.5	38.8	23.8	25.0	28.8	8.8	61.3	7.5	38.8	0.0	10.0	
	200～299人	21	33.3	66.7	0.0	9.5	33.3	47.6	42.9	14.3	9.5	4.8	0.0	66.7	4.8	33.3	0.0	4.8	
300人以上	40	25.0	57.5	5.0	12.5	60.0	67.5	45.0	20.0	17.5	15.0	5.0	67.5	0.0	30.0	0.0	5.0		

※全体結果よりも5ポイント以上高い ※無回答を除いて集計
※全体結果よりも5ポイント以上低い

働き方改善調査研究事業 報告書

【効果的だと思われる取組】

＜業種別の結果＞

全体で最も回答率が高かった「担当がいなくとも、他の人が仕事を代替できる体制づくり」は「不動産業等」(69.2%)、「業務内容のたな卸しや不必要な業務の見直し」は「不動産業等」(46.2%)、「金融・保険業」(44.6%)、「製造業」(44.2%)などで高くなっている一方、「長時間労働ではなく、時間効率を意識させる仕組みの導入」は「生活関連等」(34.5%)、「担当がいなくとも、他の人が仕事を代替できる体制づくり」は「複合サービス業」(29.4%)や「生活関連等」(31.0%)、「業務内容のたな卸しや不必要な業務の見直し」は「学術研究等」(21.7%)や「複合サービス業」(23.5%)では低くなっている。「金融・保険業」や「不動産業等」では、複数の取り組みに対して効果的だと回答する割合が高くなっており、特に「業務時間外会議の禁止」では半数以上の事業所で効果があるとしており、導入率以上に期待効果が高い取組となっている。

＜従業員規模別の結果＞

従業員規模が大きい事業所ほど各種取組に対して効果的とする割合が高く、従業員数300人以上の事業所では「計画的な残業禁止日の設定」「業務内容のたな卸しや不必要な業務の見直し」「担当がいなくとも、他の人が仕事を代替できる体制づくり」などの取組に対して半数以上の事業所で効果的であるとしている。

なお、導入されている取組と平均的な残業時間の関係について分析した結果、取り組みを行っていない事業所は、何らかの取り組みを導入している事業所に比べて平均残業時間が短い。一方、月間30時間以上の残業がある事業所の割合が高い取組は「部下の長時間労働の状況を上司の評価に反映」や「長時間労働者に対する産業医との面談」である。

図表3-4 業種別、従業員規模別の残業削減に効果的だと思われる取組（問19）

業種 (産業大分類)別	n	取組															
		計画的な残業禁止日の設定	退任時間の管理(一入)に関する申告等	部下の長時間労働の状況を上司の評価に反映	長時間労働者に対する産業医との面談												
全体	1367	31.8	18.4	26.5	51.4	18.0	25.0	34.7	24.8	29.5	24.7	20.8	22.6	21.4	48.1	2.3	6.9
農業、林業	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
建設業	73	23.3	12.3	24.7	47.9	19.2	31.5	30.1	17.8	21.9	23.3	19.2	17.8	20.5	53.4	1.4	9.6
製造業	249	36.9	20.1	24.9	57.0	17.7	26.9	44.2	20.5	30.1	23.3	25.7	24.5	19.7	50.6	2.4	6.4
電気・ガス・熱供給・水道業	12	25.0	16.7	25.0	41.7	8.3	25.0	41.7	8.3	41.7	25.0	8.3	25.0	16.7	41.7	0.0	0.0
情報通信業	8	37.5	37.5	37.5	62.5	37.5	12.5	75.0	75.0	75.0	12.5	50.0	25.0	37.5	75.0	0.0	0.0
運輸業、郵便業	42	16.7	14.3	19.0	40.5	11.9	19.0	33.3	16.7	26.2	26.2	35.7	19.0	14.3	45.2	4.8	2.4
卸売業、小売業	211	33.2	16.6	38.9	53.1	22.3	24.2	35.5	25.1	29.9	28.0	23.7	24.2	26.1	46.4	4.3	5.7
金融業、保険業	65	30.8	23.1	35.4	53.8	18.5	27.7	44.6	52.3	36.9	29.2	29.2	33.8	49.2	44.6	0.0	0.0
不動産業、物品賃貸業	13	38.5	38.5	38.5	53.8	23.1	30.8	46.2	61.5	38.5	53.8	53.8	53.8	38.5	69.2	7.7	0.0
学術研究、専門・技術サービス業	23	30.4	8.7	8.7	47.8	8.7	17.4	21.7	13.0	17.4	17.4	0.0	21.7	13.0	43.5	0.0	8.7
宿泊業、飲食サービス業	87	24.1	14.9	28.7	43.7	25.3	20.7	32.2	20.7	21.8	20.7	20.7	18.4	21.8	47.1	0.0	8.0
生活関連サービス業、娯楽業	29	27.6	3.4	10.3	34.5	17.2	13.8	27.6	13.8	17.2	20.7	20.7	13.8	6.9	31.0	0.0	10.3
教育、学習支援業	74	47.3	24.3	14.9	59.5	8.1	14.9	25.7	29.7	36.5	17.6	9.5	18.9	21.6	44.6	2.7	4.1
医療、福祉	364	31.6	21.7	22.8	52.2	18.7	29.1	31.9	25.3	29.7	24.2	14.8	23.1	17.6	49.7	1.6	6.3
複合サービス事業	17	23.5	5.9	29.4	47.1	11.8	11.8	23.5	23.5	29.4	35.3	23.5	5.9	11.8	29.4	0.0	0.0
サービス業	98	28.6	13.3	29.6	44.9	12.2	21.4	26.5	23.5	30.6	21.4	20.4	18.4	20.4	48.0	5.1	21.4
従業員規模別																	
10~19人	525	30.3	18.5	26.1	47.0	19.0	24.4	31.4	24.2	27.2	24.2	20.4	21.3	20.4	47.6	1.5	11.2
20~29人	276	23.6	18.5	22.5	54.7	14.9	22.8	34.4	21.4	23.9	22.8	18.8	21.4	20.7	46.0	2.5	5.1
30~49人	248	38.3	18.1	25.8	46.8	19.0	24.6	29.8	27.0	31.5	27.8	23.0	24.2	22.2	46.4	5.2	4.8
50~99人	167	32.9	17.4	29.3	63.5	18.0	29.3	43.7	28.7	36.5	26.3	22.2	25.1	22.8	50.9	1.8	4.2
100~199人	77	33.8	16.9	31.2	50.6	16.9	28.6	40.3	26.0	37.7	24.7	24.7	16.9	26.0	49.4	0.0	1.3
200~299人	21	23.8	19.0	47.6	61.9	14.3	28.6	57.1	19.0	28.6	33.3	19.0	28.6	19.0	61.9	0.0	0.0
300人以上	36	58.3	25.0	25.0	55.6	22.2	22.2	52.8	27.8	44.4	16.7	16.7	30.6	25.0	61.1	2.8	0.0

全体結果よりも5ポイント以上高い ※無回答を除いて集計
全体結果よりも5ポイント以上低い

働き方改善調査研究事業 報告書

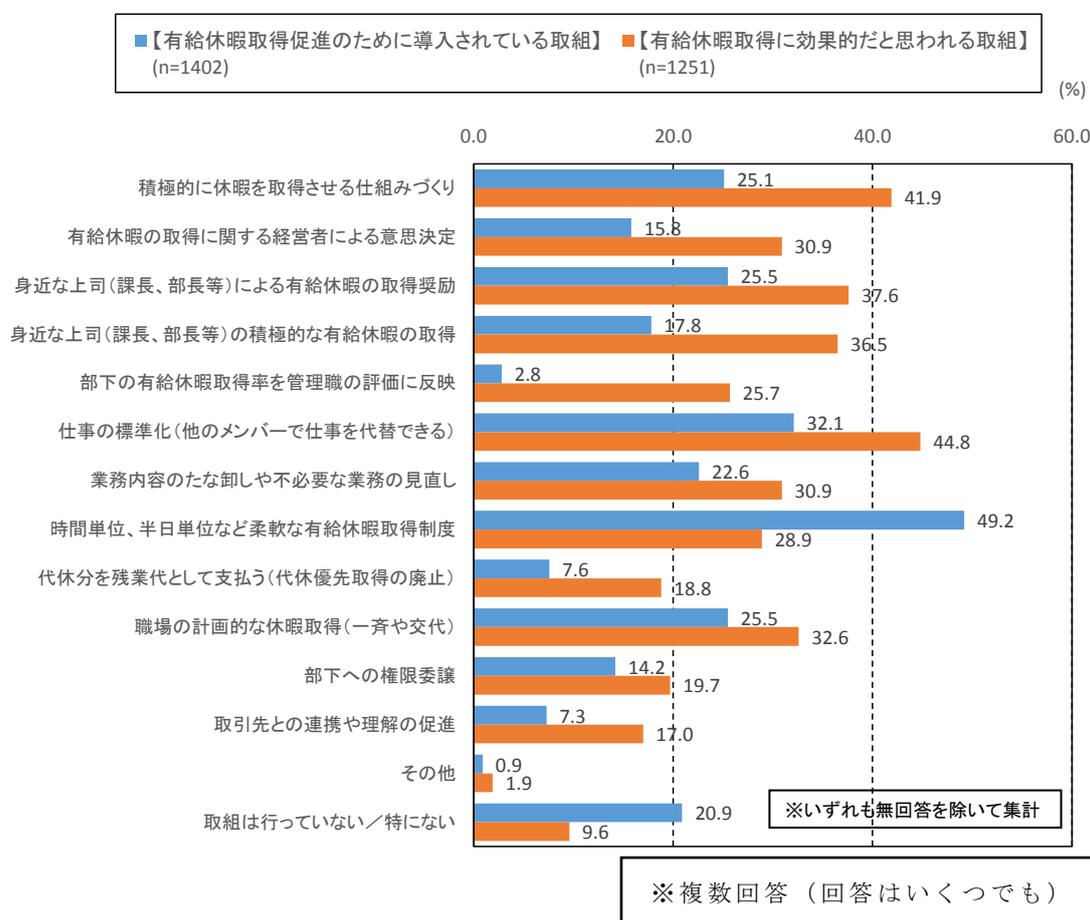
(7) 有給休暇取得促進のために導入されている取組と効果的だと思われる取組

<全体結果>

有給休暇取得促進のために導入されている取組は、「時間単位、半日単位など柔軟な有給休暇取得制度」(49.2%)、「仕事の標準化(他のメンバーで仕事を代替できる)」(32.1%)などを導入している事業所が多い反面、「取り組みは行っていない」事業所も20.9%ある。

有給休暇取得促進のために効果的だと思われる取組(導入されていなくても効果が出ると考えられる取組を含む)は、「仕事の標準化(他のメンバーで仕事を代替できる)」(44.8%)、「積極的に休暇を取得させる仕組みづくり」(41.9%)、「身近な上司(課長、部長等)による有給休暇の取得奨励」(37.6%)「身近な上司(課長、部長等)の積極的な有給休暇の取得」(36.5%)など、従業員全体や管理職の積極的な休暇取得を効果的だとする事業所が多い。

図表 3 5 有給休暇取得促進のために導入されている取組と効果的だと思われる取組(問20)



○参考値(全国調査等の結果)

【企業のワーク・ライフ・バランスに関する調査】

- ・有給休暇取得促進のために導入されている取組の上位
 - 時間単位、半日単位など柔軟な有給休暇取得制度(36.9%)
 - 積極的に休暇を取得させる仕組みづくり(25.8%)
 - 職場の計画的な休暇取得(一斉や交代)(21.4%)
- ・有給休暇取得促進のために効果的だと思われる取組の上位
 - 仕事の標準化(他のメンバーで仕事を代替できる)(40.0%)
 - 身近な上司(課長、部長等)による有給休暇の取得奨励(32.6%)
 - 積極的に休暇を取得させる仕組みづくり(30.5%)

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。(P15参照)

働き方改善調査研究事業 報告書

<導入されている取組>

<業種別の結果>

全体で最も導入率が高かった「時間単位、半日単位など柔軟な有給休暇取得制度」は、「教育、学習支援業」(64.5%)、「医療・福祉」(57.7%) で高くなっている。

効果的だと思われる取組で回答率が高かった「積極的に休暇を取得させる仕組みづくり」は、「不動産業等」(63.6%)、「金融・保険業」(57.7%)、「電気・ガス等」(52.6%)、「身近な上司(課長、部長等)による有給休暇の取得奨励」「身近な上司(課長、部長等)の積極的な有給休暇の取得」は、「電気・ガス等」(いずれも 57.9%)、「金融・保険業」(62.0%、33.8%)、「職場の計画的な休暇取得(一斉や交代)」は、「電気・ガス等」(52.6%)、「金融・保険業」(47.9%)などで導入率が高くなっている。

<従業員規模別の結果>

従業員数が200人以上の事業所で「時間単位、半日単位など柔軟な有給休暇取得制度」や「業務内容のたな卸しや不必要な業務の見直し」、「積極的に休暇を取得させる仕組みづくり」などを効果的とする事業所が多く、40%からそれ以上を占めている一方、「仕事の標準化(他のメンバーで仕事を代替できる)」や「部下への権限委譲」は、従業員規模が小さい事業所に比べて効果的とする事業所は少ない。

導入されている取組と離職率の因果関係について重回帰分析を行ったが、離職率に有意に影響する結果は得られなかった。

図表 3 6 有給休暇取得促進のために導入されている取組(問20)

業種(産業大分類)別	n	単位:%														
		積極的に休暇を取得させる仕組みづくり														
全体	1402	25.1	15.8	25.5	17.8	2.8	32.1	22.6	49.2	7.6	25.5	14.2	7.3	0.9	20.9	
農業、林業	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	
建設業	72	18.1	20.8	20.8	13.9	1.4	22.2	15.3	43.1	11.1	23.6	15.3	12.5	1.4	27.8	
製造業	258	16.7	12.4	13.2	10.1	1.6	32.9	22.9	53.9	7.0	23.6	11.2	8.1	1.2	19.8	
電気・ガス・熱供給・水道業	19	52.6	0.0	57.9	57.9	0.0	21.1	36.8	73.7	0.0	52.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
情報通信業	10	0.0	10.0	40.0	30.0	0.0	20.0	20.0	80.0	10.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
運輸業、郵便業	38	39.5	21.1	26.3	15.8	2.6	39.5	21.1	31.6	5.3	23.7	13.2	18.4	0.0	23.7	
卸売業、小売業	178	29.8	19.7	21.9	14.6	5.6	37.6	28.1	36.0	5.1	16.9	21.3	12.4	0.6	23.0	
金融業、保険業	71	57.7	23.9	62.0	33.8	8.5	33.8	26.8	53.5	5.6	47.9	22.5	7.0	1.4	8.5	
不動産業、物品賃貸業	11	63.6	27.3	27.3	27.3	0.0	18.2	18.2	63.6	27.3	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0	
学術研究、専門・技術サービス業	26	23.1	11.5	23.1	15.4	0.0	15.4	15.4	57.7	3.8	34.6	11.5	7.7	0.0	19.2	
宿泊業、飲食サービス業	84	19.0	19.0	23.8	20.2	7.1	34.5	32.1	22.6	9.5	19.0	16.7	9.5	2.4	41.7	
生活関連サービス業、娯楽業	34	14.7	8.8	14.7	5.9	2.9	38.2	20.6	35.3	2.9	26.5	14.7	8.8	0.0	26.5	
教育、学習支援業	76	21.1	7.9	25.0	6.6	1.3	17.1	15.8	64.5	5.3	42.1	3.9	2.6	1.3	18.4	
医療、福祉	392	24.0	15.3	29.8	21.9	1.5	37.2	22.7	57.7	9.7	21.4	16.1	4.3	0.5	16.3	
複合サービス事業	20	25.0	15.0	25.0	20.0	5.0	30.0	10.0	45.0	20.0	40.0	15.0	20.0	0.0	30.0	
サービス業	108	25.9	18.5	23.1	20.4	1.9	21.3	16.7	41.7	5.6	30.6	6.5	2.8	1.9	27.8	
従業員規模別																
10~19人	536	22.6	17.9	20.9	13.4	2.8	30.0	21.3	39.6	9.3	26.5	14.9	9.0	0.7	26.7	
20~29人	281	26.3	12.8	28.1	21.7	3.2	32.7	21.0	50.2	5.7	23.5	14.6	8.9	1.1	19.6	
30~49人	263	23.6	16.3	29.3	22.4	3.0	34.2	20.9	53.6	6.8	26.6	16.7	6.5	0.8	16.7	
50~99人	168	27.4	16.1	28.6	15.5	3.0	36.9	24.4	56.5	8.9	19.6	10.7	3.6	1.2	17.9	
100~199人	79	27.8	15.2	27.8	19.0	1.3	32.9	27.8	68.4	5.1	31.6	13.9	5.1	0.0	13.9	
200~299人	21	38.1	4.8	23.8	23.8	0.0	28.6	38.1	57.1	0.0	28.6	9.5	0.0	0.0	9.5	
300人以上	37	48.6	16.2	32.4	21.6	0.0	24.3	43.2	73.0	8.1	37.8	5.4	2.7	5.4	8.1	

全体結果よりも5ポイント以上高い ※無回答を除いて集計
全体結果よりも5ポイント以上低い

働き方改善調査研究事業 報告書

<効果的だと思われる取組>

<業種別の結果>

全体で最も回答率が高かった「仕事の標準化（他のメンバーで仕事を代替できる）」は、「教育、学習支援業」（59.4%）、「積極的に休暇を取得させる仕組みづくり」は「宿泊・飲食」（56.3%）、「身近な上司（課長、部長等）による有給休暇の取得奨励」は「金融・保険業」（55.4%）、「身近な上司（課長、部長等）の積極的な有給休暇の取得」は、「金融・保険業」（55.4%）、「卸・小売業」（45.6%）などで回答率が高くなっている。

<従業員規模別の結果>

従業員規模が大きい事業所ほど複数の取組に対して効果的とする事業所が多く、特に従業員数が200人以上の事業所で「仕事の標準化（他のメンバーで仕事を代替できる）」、「積極的に休暇を取得させる仕組みづくり」、「身近な上司（課長、部長等）による有給休暇の取得奨励」、「身近な上司（課長、部長等）の積極的な有給休暇の取得」、「業務内容のたな卸しや不必要な業務の見直し」などの取組に対して効果的とする事業所が半数程度からそれ以上を占めている。

図表37 有給休暇取得促進のために効果的だと思われる取組（問20）

業種（産業大分類）別	n	積極的に休暇を取得させる仕組みづくり	有給休暇の取得に関する経営者の意思決定	有給休暇の取得奨励	身近な上司（課長、部長等）による有給休暇の取得	身近な上司（課長、部長等）の積極的な有給休暇の取得	部下の管理職の積極的な有給休暇取得の奨励	率を管理職の積極的な有給休暇取得の奨励	代替できるメンバーで仕事を代替	仕事の標準化（他のメンバーで仕事を代替できる）	直しや不要な業務の見直し	業務内容のたな卸しや不必要な業務の見直し	取得制度など柔軟な有給休暇取得の奨励	時間単位、半日単位など柔軟な有給休暇取得の奨励	取得の廃止（代休優先）	代休分を残業代として支払う（代休優先）	職場（一斉や交代）	取得（一斉や交代）	部下への権限委譲	解の促進	取引先との連携や理	その他	取組に行っていない	
		単位：%																						
全体	1251	41.9	30.9	37.6	36.5	25.7	44.8	30.9	28.9	18.8	32.6	19.7	17.0	1.9	9.6									
農業、林業	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
建設業	63	39.7	30.2	30.2	27.0	22.2	44.4	27.0	14.3	19.0	17.5	20.6	25.4	0.0	11.1									11.1
製造業	232	42.2	26.3	31.9	30.2	19.8	50.9	30.2	30.2	12.1	37.1	17.7	15.9	1.3	9.1									9.1
電気・ガス・熱供給・水道業	9	44.4	22.2	44.4	33.3	33.3	66.7	44.4	11.1	0.0	44.4	11.1	11.1	0.0	0.0									0.0
情報通信業	10	70.0	40.0	50.0	40.0	30.0	50.0	30.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0
運輸業、郵便業	36	27.8	5.6	41.7	38.9	30.6	41.7	27.8	38.9	22.2	25.0	25.0	25.0	5.6	16.7									16.7
卸売業、小売業	193	43.0	44.0	41.5	45.6	39.4	42.5	33.7	32.6	25.9	36.3	21.8	18.1	3.1	9.3									9.3
金融業、保険業	65	43.1	43.1	55.4	55.4	41.5	44.6	32.3	26.2	21.5	38.5	18.5	26.2	0.0	3.1									3.1
不動産業、物品賃貸業	14	57.1	57.1	50.0	42.9	42.9	71.4	57.1	42.9	21.4	50.0	35.7	35.7	7.1	0.0									0.0
学術研究、専門・技術サービス業	22	9.1	18.2	31.8	18.2	9.1	45.5	22.7	18.2	13.6	36.4	4.5	0.0	0.0	4.5									4.5
宿泊業、飲食サービス業	71	56.3	26.8	33.8	33.8	32.4	32.4	32.4	40.8	23.9	26.8	22.5	19.7	2.8	15.5									15.5
生活関連サービス業、娯楽業	24	37.5	12.5	37.5	37.5	20.8	20.8	33.3	16.7	20.8	12.5	16.7	12.5	0.0	12.5									12.5
教育、学習支援業	69	33.3	24.6	37.7	36.2	8.7	59.4	37.7	26.1	11.6	39.1	11.6	10.1	0.0	4.3									4.3
医療、福祉	332	41.6	31.3	37.3	34.9	22.6	43.4	29.5	28.0	19.0	33.7	21.4	13.0	1.5	7.8									7.8
複合サービス事業	20	50.0	20.0	20.0	35.0	15.0	35.0	15.0	20.0	35.0	25.0	15.0	20.0	0.0	0.0									0.0
サービス業	89	43.8	29.2	39.3	36.0	24.7	42.7	28.1	32.6	18.0	23.6	23.6	24.7	5.6	23.6									23.6
従業員規模別																								
10～19人	492	38.2	30.7	37.0	34.1	24.0	43.9	25.0	30.5	19.5	27.6	18.7	16.9	1.4	14.2									14.2
20～29人	249	41.0	29.3	30.9	36.1	23.7	39.0	29.3	26.1	19.7	32.9	16.5	15.3	2.4	8.4									8.4
30～49人	215	48.4	32.1	38.1	38.1	29.3	47.9	32.1	27.9	19.5	37.7	22.8	19.5	4.2	6.5									6.5
50～99人	162	40.1	30.9	38.3	34.6	27.8	46.9	41.4	27.2	16.0	39.5	22.8	16.7	1.2	6.2									6.2
100～199人	66	45.5	27.3	50.0	47.0	25.8	42.4	37.9	31.8	16.7	30.3	18.2	18.2	0.0	3.0									3.0
200～299人	21	52.4	38.1	47.6	47.6	38.1	61.9	52.4	28.6	9.5	28.6	19.0	9.5	0.0	0.0									0.0
300人以上	31	54.8	38.7	58.1	41.9	22.6	67.7	41.9	35.5	22.6	45.2	25.8	22.6	0.0	0.0									0.0

全体結果よりも5ポイント以上高い ※無回答を除いて集計
全体結果よりも5ポイント以上低い

働き方改善調査研究事業 報告書

(8) 非正規雇用から正規雇用への切替制度の有無

<全体結果>

非正規雇用の従業員を正規雇用へ切替える制度は、「正規雇用者への切替制度がある」(58.1%)、「正規雇用者への切替制度はないが、今後検討する予定である」(21.6%)、「正規雇用者への切替制度はない(今後の検討、設置予定はない)」(20.3%)と、過半数の事業所で切替制度を有している。

<業種別の結果>

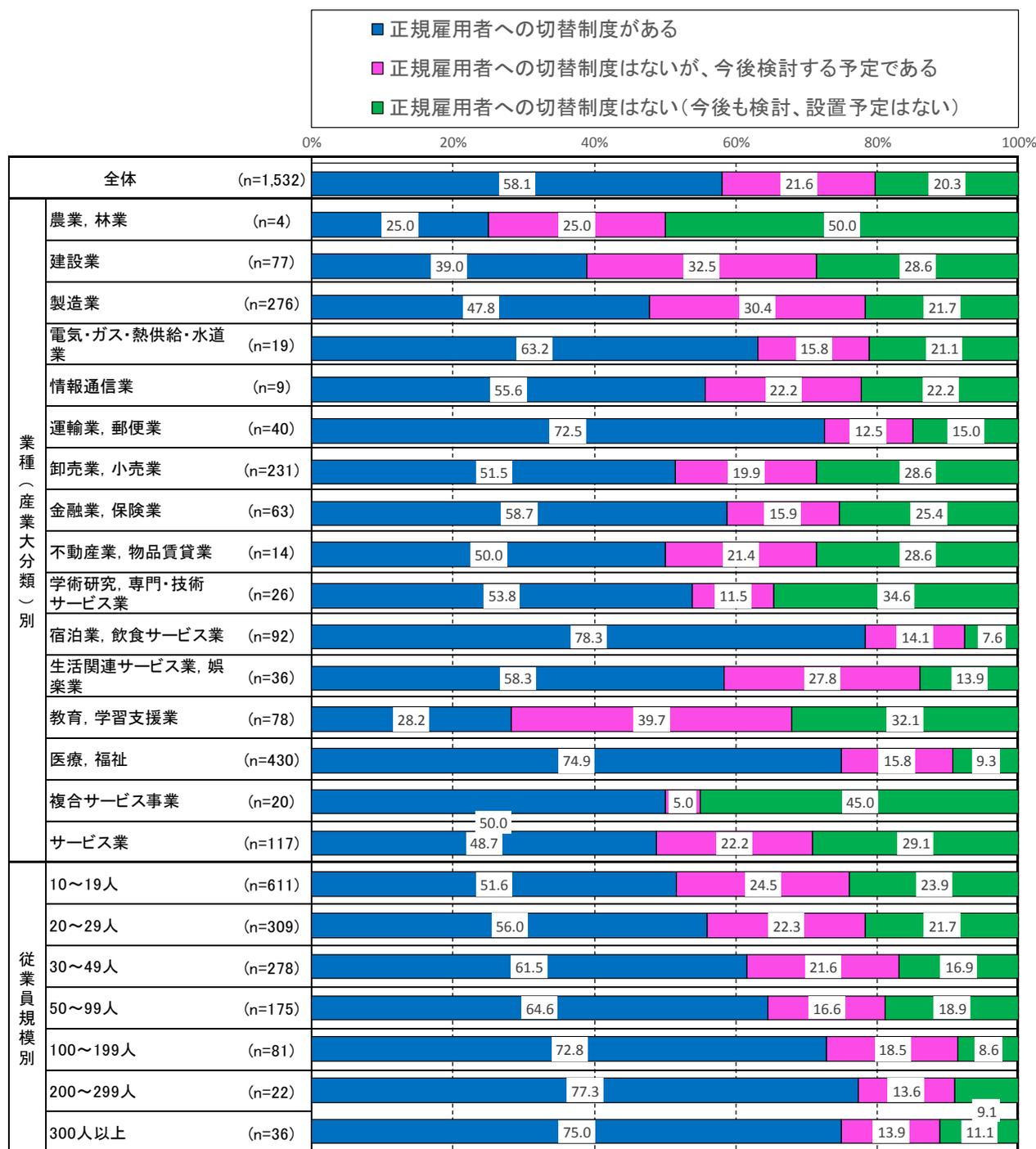
切替制度がある事業所割合が高い業種は、「宿泊・飲食」(78.3%)、「医療、福祉」(74.9%)、「運輸・郵便業」(72.5%)などである。一方、切替制度がない事業所割合が高い業種は、「複合サービス業」(45.0%)、「学術研究等」(34.6%)、「教育、学習支援業」(32.1%)などである。

<従業員規模別の結果>

従業員規模が大きい事業所ほど切替制度がある事業所割合が高く、従業員数100人以上の事業所では70%以上が切替制度がある。

働き方改善調査研究事業 報告書

図表 3 8 非正規雇用から正規雇用への切替制度の有無（問 2 1）



※無回答を除いて集計

○参考値（全国調査等の結果）

【多様な就業形態に関する実態調査⁷⁾】

・正社員への登用制度がある事業所は、「無期・有期パート」を対象とした場合は 17.6%、「有期社員」を対象とした場合は 16.1%、「派遣労働者」を対象とした場合は 4.3%である。

※調査の設計上異なる部分があるため、本調査との比較には注意が必要。(下記参照)

⁷⁾平成 22 年 8 月に独立行政法人労働政策研究・研修機構が実施した調査。帝国データバンクが保有する事業所データベースから平成 18 年「事業所・企業調査」(総務省統計局)による常用雇用規模×産業大分類の事業所数をベースとして、規模・産業による層化抽出を行い抽出した 10,000 所が調査対象。平成 22 年 7 月末日時点を基準とした。郵送による調査票の配布回収方法で実施。有効回答数は 1,610 所(有効回収率 16.1%)。

第3章 従業員調査結果

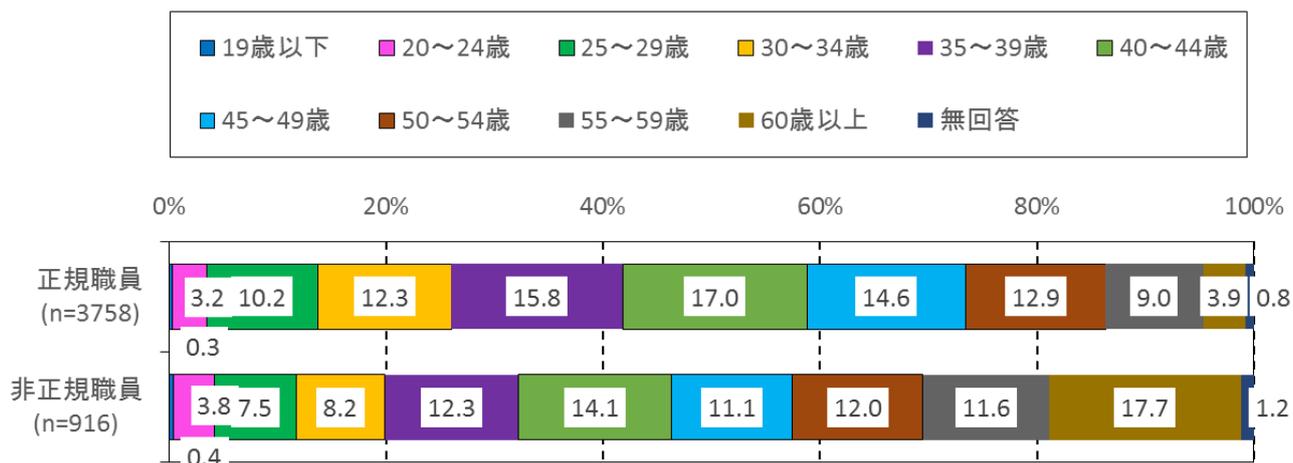
1. 基本属性

(1) 年代

<全体結果>

正規職員の平均年齢は 42.0 歳であるのに対し、非正規職員の平均年齢は 46.0 歳と 4 歳高い。この差は 60 歳以上の非正規職員が 17.7% を占めていることによる。

図表 3 9 年代（問 1）



正規平均 : 42.0 歳

非正規平均 : 46.0 歳

(2) 性別

<全体結果>

正規職員は「男性」が 59.4% に対し、非正規職員は「女性」が 73.4% を占める。

図表 4 0 性別（問 2）

